5TCの記録

2011 年8月 10 日（水）～16 日（火）

野営部門会場　グリム冒険の森

舎営部門会場　滋賀県立希望が丘文化公園　青年の城

地区 35 周年を記念して

黒田地区協議会長

ボーイスカウトは 1907 年、英国で行なわれた小さなキャンプから始まりました。少年たちに夢と冒険を与える素晴しいキャンプでした。豊中地区キャンポリーは、地区のスカウトが一堂に集い、キャンプ生活を通して日頃のスカウト活動を実践し、相互の友情を深め、自発活動を促す、地区最大のキャンプです。

豊中地区は、1976 年に豊能地区から分封独立して 35 年になります。この間、豊中地区キャンポリーは、第 1 回滋賀県あいば野(1981 年)、第 2 回滋賀県マキノ高原(1988 年)、第 3 回京都府大江山(1996 年)、第 4 回愛媛県大三島(2004 年)の 4 回開催されました。

第 5 回豊中地区キャンポリーは、地区結成 35 周年という記念すべき年に、滋賀県蒲生町グリム冒険の森で「Feel the Nature, Feel the Scouting!」～自然を感じ、スカウティングを感じる～をテーマに 500 人が参加し、8 月 10 日～16 日の 7 日間にわたる長期キャンプとなりました。

これまでの地区キャンポリーは、地区主体のプログラムを提供した運営でしたが、今回の地区キャンポリーは、コミッショナーチームとラウンドテーブルを中心に企画され、プログラムは各隊の独自性を生かした運営で行なわれました。日頃の訓練の成果を発揮して、いきいきと活動しているスカウト達の姿を見ることができました。

また、スカウト達は東北地方の地震で被災されたスカウト達に励ましのメッセージを横断幕いっぱいに、心をこめて書いてくれました。コミッショナーチームが中心に企画された開会式・全体集会・閉会式では、スカウト達は盛り上がり、おおいに楽しんでおりました。

大変素晴しい地区キャンポリーであったと思っております。これも参加隊の指導者の皆さんのおかげで、成功のうちに終えることができたこと、本当にありがとうございました。また、団委員長をはじめ団をあげてご支援いただき感謝申し上げます。

この地区キャンポリーを通してたくさんの力の結集がありました。この力を団・地区の弥栄につなげてほしいと祈願しております。

第5回　地区キャンポリーを振り返って

地区委員長　　安田　哲朗

第5回地区キャンポリーは、豊中地区結成35周年を記念し、 ～自然を感じ、スカウティングを感じる～をテーマに　　VS・BSは8月10日～16日、滋賀県日野町「グリム冒険の森」で開催、CSは8月13日～16日、BVSは8／月13日～15日の間　滋賀県竜王町希望が丘文化公園・青年の城で開催されました。

団や隊の指導者、スカウトクラブの方々、そして大会役員の協力で、大きな事故もなく、無事終了出来たことに感謝致します。

第5回地区キャンポリーの特色は、

1）プログラムをラウンドテーブル（隊長会議）主体で行った事。

2）VS・BSは6泊7日の長期キャンプを実施した事。

3）野営地を各班に割り当て、隊指導者の基で、自主的な班活動を求めた事。

4）本部員・隊指導者の3食の食事を、大会本部に食堂を設置し、食糧係を中心に当番制で行った事。

上記4点は、新しいキャンポリーの在り方を感じます。不備な点は多々あったと思いますが、6TC・7TCを実施するにおいて大きな試金石になったと思います。

再度になりますが、豊中地区全指導者の御協力に感謝致します。

第５回豊中地区キャンポリーを終えて

キャンプコミッショナー　菅沼宏之

5TCに関わって頂きました多くの方々のおかげをもちまして、無事に大会が終了致しました事に対して、キャンプコミッショナーとして、厚く御礼と感謝申し上げます。

今回のキャンポリーは今までのキャンポリーとは違うコンパクトな運営で、標準隊を目指し、隊、班（組）中心の自主運営によりスカウトが自主的に活動できるように促し、夏キャンプが年間プログラムのハイライトであることを位置づけるキャンポリーとなるようにしました。

1. 大会会場について

キャンプ会場（グリム冒険の森）と舎営会場（希望ヶ丘）と約車で1時間の距離があり、お互いの交流が大集会のみとなり、もう少し近ければ交流も、もう少し深めたと思われます。グリム冒険の森の会場レイアウトは非常に良く、ジャンボリー会場を思わせるようなレイアウトでした。 開会までは会場のインフラ関係で施設とのトラブルもありましたが開会するとほとんど混乱もなく、スムーズに流れたように思います。ただお風呂、シャワーの施設がなく、バスによる輸送を行いました。 希望ヶ丘は施設を貸し切れたことで非常に良かったように思います。

2. 大会期間について

キャンプ部門では10日から16日までの6泊7日ということで、初めて経験するスカウト、指導者もいましたが皆が「長期キャンプでも出来る」と自信を持って家路につかれ、来年の大阪キャンポリー、16NJへのステップとなりました。

舎営部門でも2泊3日しかしていないCS隊が3泊4日をすることでこちらもスカウト、指導者の自信につながったことだと思います。

3. 参加者

舎営部門は130名、キャンプ部門では190名の参加で両部門とも思っていたよりかは少なかった。特にBVS部門は非常に少なかった。しかしいつも少人数で活動していたBVS隊が多くのお友達と一緒に活動できて良かったと思います。 全く参加していない団が2ヶ団あり非常に残念な事であった。

4. スカウトの満足度

スカウトは満足していたと思いますがジャンボリーに参加したことのあるスカウトはもっと他団と交流があり、お祭り部分が少なかったために少し不完全燃焼な部分もあったようである。 もっと他団との交流するプログラムを計画すべきであったと思います。キャンポリーに向けて準備をしている団とそうでない団との差が非常に大きかったようである。

5. 指導者の満足度

隊、班中心の大会の為に指導者のスキルの違いが非常にでた大会であった。ジャンボリー等の大会を経験された指導者はジャンボリーと同じような対応をしてとまどいもありました。指導者の満足度はスカウトの満足度が高ければそれで良いと思います。

6. キャンポリーの運営形

少人数制の運営形態を作りましたが隊指導者と本部役員を兼務されている方々には多くの負担をかけました。しかし大会を運営するに当たって最低限の運営形態だったと思います。大会の性質上困難な部分もありますが、キャンプ、舎営部門とも人の出入りの把握が出来なかったとおもいます。

7. プログラム（キャンプ部門）

【開会式】

夜に行ったために厳粛な雰囲気の中で開会できました。

【大集会】

灼熱の中行われBVS、CS の体調が気になりましたが大きなトラブルもなく終えることが出来ました。少し忙しくプログラムを展開した部分もありますが、あの時間帯では適度な時間配分だったと思います。

【キャンポリーナイト】

今回唯一のお祭りの場でした。 ベンチャースカウトの活躍により非常に盛り上がりました。ベンチャー諸君に感謝します

【スカウト平和の日】

朝六時にスカウツオウンを行い東日本大震災について考える一日としました。 大会初日より東北へのメッセージボードも作成し、朝食には東北の笹かまぼこを配給し、東北への思いのきっかけとなるようにしました。 指導者の皆さんはスカウトと共に一日語り合って頂けたと思います。

【閉会式】

非常にシンプルで感動できる閉会式になったと思います。 閉会式を企画していただいた運営の方々に感謝します

8. まとめ

① スカウトは満足し大変喜んでもらえたようだ。長期キャンプに対しての自信もついたようで、この経験を今のCS、BVSのスカウトに話してもらえれば非常に喜ばしい。

② 運営面からみると、配慮の足りなかった部分も多かったが、ジャンボリーではなくキャンポリーであると考えれば成功だったと思う。

③ 舎営部門も個々の団が活動しているのではなく、同じ目的を持った団が活動していることがわかって頂けたと思うし、スカウティングが一貫教育でありCS部門がBS部門へ上進するための活動であると理解して頂いた大会だったと思う。

④ 大阪キャンポリー、16NJに向けて考えてみると今回のキャンポリーの経験が十分にいかせると思う大会であった。今後この大会の経験を生かして頂き今後の豊中地区のスカウト達の益々の活動に期待します。

第5回豊中地区キャンポリー報告

5TC実行委員長永浦敬三

1.総括

去る8月 10 日より 16 日にかけて開催された豊中地区 35 周年記念・第5回豊中地区キャンポリーは、Feel the Nature、Feel the Scoutingのテーマのもと、BVS・CSの舎営地・青年の城、およびBS・VS の野営地・グリム冒険の森の滋賀県でも有数の2施設を最大限に活用して、その目的である「自然に親しみ、仲間と喜びを分かち合い、スカウティングを行う」という活動目的を充分に達成しながら、特に大きな事故も無く無事終了いたしました。参加者総数 407 名。舎営 220 名（BVS49 名、CS171 名）野営 187 名（BS121 名、VS41 名、本部 25 名）です。

2.プログラム

活動内容の詳細は、「活動の記録」より報告されておりますが、計画された大会日程はすべて予定通り実行されました。野営部門・舎営部門それぞれの開会式、全スカウトがグリムに集った全体集会、野営サイトを廻りながらのBVS・CSスカウトのはしゃぐ顔、一生懸命に接待するBS・VSスカウトの真剣な顔、みんなみんながすばらしい顔でした。また、キャンポリーナイトでの班ごとの対抗戦、みんな頑張りました。そして一週間の仲間との生活・活動を思い、野営地に集う全員が心を一つにした閉会式、心に残りました。特にVSスカウトの「5TC・・・」という歌声、すばらしかった。感激ものです。より良いプログラムを進行してくれたスタッフに感謝いたします。

3.運営

軽度の日中症や疲れから救護室にて休憩したスカウトが数名おりましたが、それ以外、怪我・病気での途中帰宅は3名（BS2 名・VS1 名）でした。帰宅後、数日間で回復されたと聞き安心しております。

野営地では、指導者用駐車場の急な移動などありましたが、特に大きなトラブルは無く、また、トイレ・上水に関しても特に問題は無く進行いたしました。

入浴等につきましても、各隊の場外プログラムと合わせた利用や、12・14日の循環バスの運行ガ実現し、多くのスカウト・指導者が利用しました。

今回の運営に関し、早くから企画・計画に携わってこられた実行委員の皆さん、各団関係者の皆さん、お疲れ様でした。

特に運輸部は、複雑なバス運行を完全なるかたちで実施してくれました。また、食料部は切り詰めた予算の中ですばらしい食材・メニューを提供してくれましたし、指導者への毎食の食事を楽しませてくれました。野営管理部においては安全に気を使い過ぎるほど使い十分な管理を行ってくれました。そしてサービス部におきましては入退場の管理や、対施設との交渉、大変お疲れ様でした。

舎営地においては、BVS・CS 部門の担当コミッショナーにお任せしましたが、問題なく運営されたこと、感謝いたします。

以上、皆様のご協力とご努力によって5TCが成功裏に無事終了できましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

5TCが終わって思う事

野営管理部　柗本浩志

“Feel The Nature! Feel The Scouting!” 自然を感じ、スカウティングを感じるをテーマに行われた「第 5 回豊中地区キャンポリー」に私は野営管理部長という大役を受け参加させて頂きました。6 泊 7 日の長期キャンプ中の安全と衛生の責任者として全員が何事もなく無事に帰阪する事が出来ましたと報告したかったのですが、残念ながら数名の負傷者を出してしまい、大会の途中で帰宅させざるを得ない事態が発生したと言う事について非常に残念に思い深く反省しております。

作秋コミッショナーより「野営管理部長頼むよ。」との電話を受け、なんで私が・・と思いながら、せっかく御指名頂いたのだから皆様のお役に立てる事が出来れば・・とこの役を引き受けさせて頂きました。業務内容につきましては、キャンプ場の設備の構築、地割、警備、環境、防災、危機管理と範囲が広く、どうなる事かと思いました。

地割につきましては、炎天下の中 12 時から 2 時間で行わなくてはならない所でしたが，開始時刻も早くなり予定より 30 分も早く完了する事が出来ました。多くのスタッフの皆様が私の指示を的確に理解し迅速に行動頂いた結果だと思います。本当に感謝しております。

ただし、事前の計測が曖昧な所があった為に一部の班サイトが 10m×12m（120 ㎡）のところを 8m×15m（120 ㎡）になってしまった事、指導者のサイトが確保出来ず歪な形にせざるを得なくなった事は反省しております。今回は、用意頂いたサイト範囲も広く対応する事が出来ましたが、こう言った大きな大会を開催する場合は時間をかけてしっかり計測する必要があると痛感致しました。

警備、環境につきましては多くのスタッフの皆様の協力を頂き無事に遂行する事が出来ました。特にゴミ処理の担当を頂きました 22 団植村VS隊長とトイレ掃除について担当頂きました 2 団高橋VS副長、澤副コミ、山本団コミは毎朝の業務で本当に大変だったと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。

防災、危機管理面については、防災面でまずは“立ちかまど”ですが、使用方法について打ち合わせの度に状況が変わり最終的に鉄板を巻かないといけない事となりました。BS隊の隊長の皆様に色々と御迷惑をかけました事を反省しております。ただし会場内において火災や火傷などの事故はほとんどありませんでした。各隊の指導者の皆様のおかげと感謝しております。危機管理面では、“ヒル”については事前に色々と準備をしておりましたがその他の有害動物について注意の喚起が足らなかった事を反省しております。また刃物による負傷者が出てしまった事が残念です。事前の通達を行う、安全講習会をする等必要があったのではないかと反省しております。

私は、仕事の都合で 10 日に地割と設営を行い一旦帰阪し、12 日の夜から再度大会に参加しました。12 日の夜コミッショナーから「明日の大集会とキャンポリーナイトが終わったら撤営計画を立ててや。」と言われました。やっと始まったと思ったら大会の後半は撤営の事ばかり考えていました。終わってみれば 7 日間あっと言う間に過ぎて行きました。多くの皆様の協力を頂きなんとか撤営完了まで到達する事ができました。伝えたい事がなかなか末端の参加スカウトまで伝わらない、全ての参加者が共通の意識を持つ事は大変難しいと何度となく思いましたが、最終日の撤営が予定より 10 分も早く完了出来た時、この大会を通じて豊中地区の団結力が少し増した様な気がしました。

スカウトは自然を感じ、スカウティングを感じる事が出来たのでしょうか？　安全で事故が無い事は当り前の事です。この当り前を維持出来なければスカウトの成長につながるプログラムの提供は出来ないと思います。今回の大会がスカウト達にとって自然を感じながらスカウティングって楽しいなぁと思えるものであったら、私の任務は遂行出来たのではないかと思います。

最後に大会運営スタッフを始め、コミッショナーグループ、指導者の皆様のたくさんの御協力と御指導に感謝致します。ありがとうございました。

5TCを終えて

食料部　瀧山 政雄

今、率直に感じることは嵐のように過ぎ去った5TCであったということです。

今回は参加する前からとにかく食料部の業務に徹することが私の仕事と思っていました。 そして今感じることは、完全にやり遂げることが出来なかったことを少し悔やんでいます。ある程度の予想は出来ていましたが、野菜や一部材料が余ってしまったこと、事前に考慮したにもかかわらず、数の読み違えがあったことに反省するところがあります。本部、指導者の皆様のご協力で、後片付けや配給は何とか問題なくこなせましたこと感謝申し上げます。特に近くで仕事をしていただいていた受付担当の本部員の方々には本当にお世話になり、お礼を申し上げたいと思います。

外部では特に今回の食品を調達していただいた市田食品さんのご主人と奥様には良い材料を可能な限り安く仕入れて頂き、追加注文や数の変更にもご対応して頂きましたこと心より感謝しております。

米、氷、弁当、野菜など、日野町のみなさまにも大変お世話になったと市田食品さんから聞きました。5TCの成功の影に色々な方々のお力があることを絶対に忘れてはならないと感じております。

改めて食の大切さを痛感したキャンプであったと思います。 そして本部、指導者のみなさまのご協力に感謝を申し上げて私の感想と致します。

中地区第5回キャンポリー輸送部について

輸送部 谷岡 信良

5TC 輸送部は、主に往復のバス、現地での場外プログラムに使用するバスの運行および各団持ち込み車両の管理を担当しました。

全体としましては、各団・各部門の皆さんのご協力により大きなトラブルもなくスムーズな運行ができましたことに感謝申し上げます。

バス運行につきましては、今回は部門ごとに出発日が変わることから部門ごとに2～3ヶ所の集合場所から出発することにしました。BVS 部門、VS 部門はバス1台での運行でしたので、1台のバスが複数の集合場所を回って乗車してもらうことにしました。

BVS,CS 部門は8月13日の出発だったこともあり、渋滞の影響で30分到着が遅れてしまいました。出発時間との兼ね合いもありますが、要再考です。

場外プログラムにつきましても、各隊のご協力でほぼ予定通りの運行が実施できました。

また、野営部門ではお風呂とプール行きのシャトルバスを運行することができ、健康管理の面でよかったと思います。

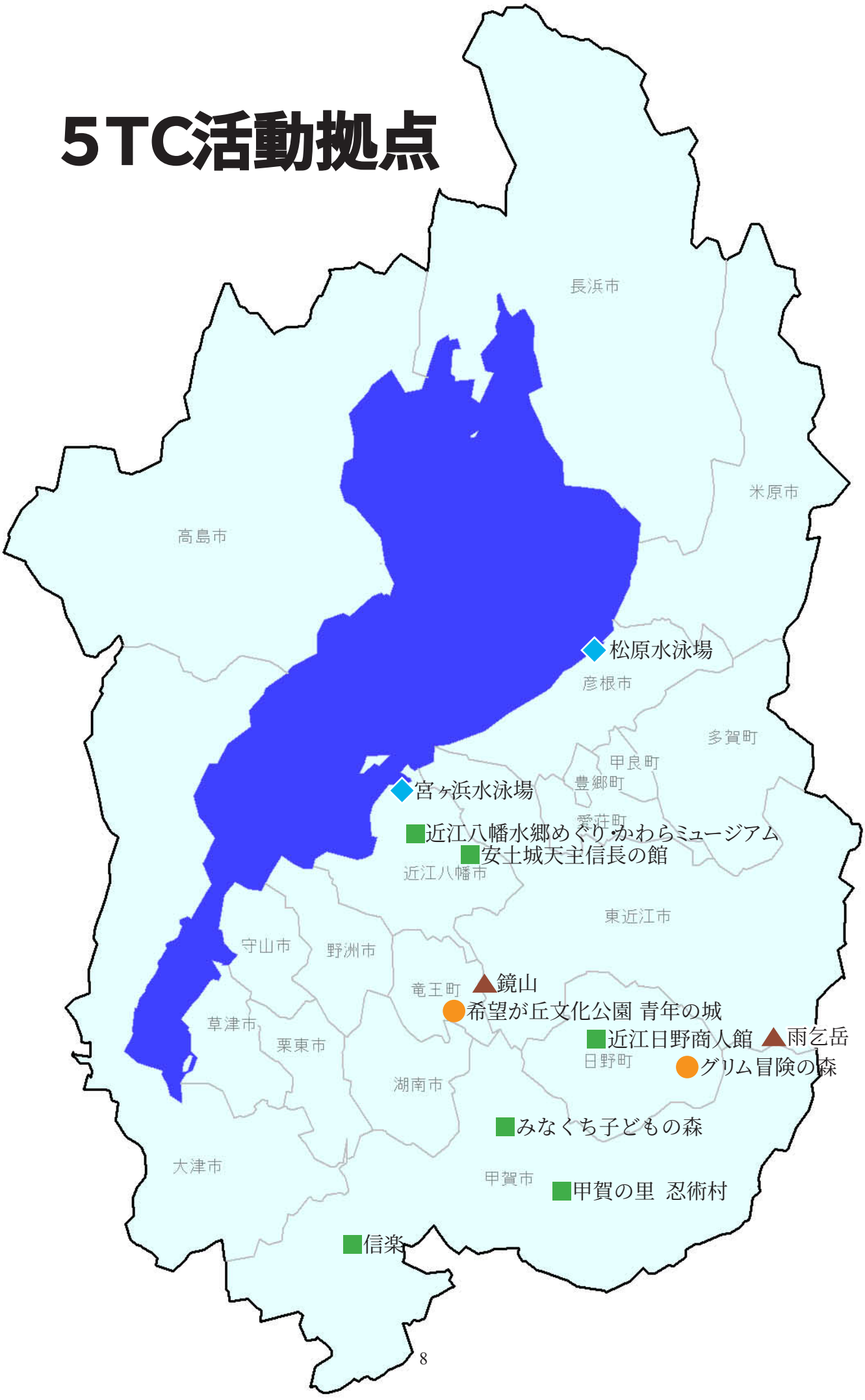
各団の持ち込み車両については4TC と同様に、事前に申請してもらい許可証を発行して管理することしました。

8月13日が現地グリム冒険の森のお祭りと重なり、BVS,CSバスの駐車スペースを確保するため、車の移動をお願いするということもありましたが、こちらも皆さんのご協力で

無事バスが到着できました。

今回のバス運行に当たっては、実行委員の皆さんはもとより、旅行会社アカデミートラベルの井戸さん、そして、バス責任者等引き受けていただいた各団、各隊の皆さんのご協力に改めて感謝いたします。ありがとうございました。

5TC活動拠点


長浜市
米原市
高島市
松原水泳場
彦根市
多賀町
甲良町
豊郷町
宮ヶ浜水泳場
愛荘町
近江八幡水郷めぐり・かわらミュージアム
安土城天主信長の館
近江八幡市
東近江市
守山市
野洲市
竜王町
鏡山
希望が丘文化公園 青年の城
草津市
栗東市
近江日野商人館
雨乞岳
日野町
グリム冒険の森
湖南市
みなくち子どもの森
大津市
甲賀市
甲賀の里 忍術村
信楽

7日間の隊キャンプ

5TCキャンプリーダー　高矢　恒

【豊中地区キャンポリーで隊キャンプを】開催1年前の会議室。コンセプトはあっさり決まり5TC企画委員会の共通理解は深まった。

ボーイスカウトの夏キャンプといえば、班は成熟し・一人一人が自分の役目を全うし・年間の最優秀班を決める総仕上げのキャンプである。キャンポリーはお祭り行事の一面と隊キャンプの場を提供することと、両面の企画・運営が必要であった。

ベンチャースカウトは夏の遠征やプロジェクトの実施など、自分たちが考えた企画をキャンポリーに絡めることをラウンドテーブルで話し合い、プロジェクトの立ち上げ・ニーズの集約の時点から地区内スカウトを集めて団の枠を超えたプロジェクトチームの結成がなされた。

準備の時間は瞬く間に過ぎ去り、あれが足りない・この指導が未完である、など問題は沢山あったが、いよいよグリム冒険の森での7日間がはじまった。

参加したボーイスカウトは班長を中心に日に日にたくましく活き活きとし、明るい笑顔がサイトから溢れる。ベンチャースカウトはキャンプそのものを楽しみ、肩を組んで歌い・夜遅くまで語り合い、自分たちのサイトを運営していた。

隊指導者の皆さんには大変なご苦労をお願いし、スカウトの指導・規律の維持・安全への配慮・キャンプ運営を担っていただき、感謝の言葉は尽きません。

キャンプリーダーとして野営部門のスカウトがこのキャンポリーへの参加を通じてなにかひとつでも成長することが何よりの課題であったが、実際にはいかがであっただろうか。スカウトの成長を実感できるのは今後の活動において徐々に発揮されるものと考える。スカウトが何かの障壁や課題に取り組む際に「あのキャンポリーでの経験」が思い出され、それらを乗り越えることができた時こそが、スカウトの成長すなわちキャンポリーの成果と言えるのではなかろうか。参加した多くのスカウトがキャンポリーでの経験を思い出す瞬間が訪れることを願って止まない。

豊中第２団 VS隊　岡尾　歩

大学受験が終わり、久しぶりに参加したベンチャー隊の活動が３月の下旬に箕面教学の森にて行われた豊中地区ベンチャートレーニングキャンプでした。そのキャンプの内容を特に伝えてもらえずに現地へ向かい、普段はあまり接触のない地区の他の団のスカウト達に交じりリーダーの話を聞くと第５回豊中キャンポリーの開催に向けてプロジェクトを作成しようというものでした。

キャンポリーは前回も参加しましたがそのときはボーイ隊だったのでただ用意されたプログラムをこなすだけでしたが、今回は初めてこのような大会で自分でプロジェクトを立てて実行するということを体験しました。僕たちが立ち上げたプログラムは「非公認 5TC テーマソングを作って会場などをバックに PV を撮影し、さまざまな場で後輩スカウト達に公開する」というものです。なぜこのようなプロジェクトを作ったかというと、未来のボーイスカウトにはこれから先にあるジャンボリーなどの大会などには積極的に参加してほしいと思ったことがきっかけです。

さらに、ベンチャー隊は自分たちのサイトの備品などを自分たちで調達しなければなりませんでした。何回も会議を繰り返し備品リストを作り、他の団の人とも仲良くなり、そして5TC は始まりました。事前の準備のかいもあり思ったよりも順調に生活できました。何よりもプロジェクトのために会場内で撮影をし、なかなか多くの人に聞いてもらった僕の作曲した曲は自分が想像もしなかったほど結構反響があったのでこのことにはとても驚きました。

今回の5TC では僕のベンチャー活動の中でも少し変わった経験をさせていただきました。多くの人と係わり合い、一つの大会を自分たちで作りあげていくという普段の活動ではあまり経験できません。この5TC を支えてくださった本部の方々やその他リーダーの方などに感謝。ありがとうございました。そしてベンチャー隊の仲間にも。楽しい時間をありがとうございました。

豊中第2団VS隊隊長　高橋孝之

5TCでのVS隊の参加スタイルは基本的に地区VSで動くことがVSRTで決まり、昨年12月から始動しました。キックオフイベント（ボーリング大会）、地区VSトレーニングキャンプ等を行い、徐々に本格的に各プロジェクトニーズの抽出・グループ編成、企画立案・そして共同生活の準備について進めていきました。

今回のキャンプでは地区VSで1つの隊を編成し、議長を決め、議長を中心にしたVS隊本来の活動スタイル「自治」による運営を行いました。当日までに十数回にわたる会議を開催し、皆、かなり、苦労していましたが、スカウトら自身による自治のスタイルで数カ月進めてきたこともあり、本番直前には自治の体制が確立されてきたように思われます。プロジェクトについては、2団からは4つのプロジェクトチームが立ち上がりました。5TCのテーマソング作詞作曲＆PV作成チーム、琵琶湖1周自転車チーム、琵琶湖周辺グルメめぐり移動キャンプチーム、チョコバナナ店出店チーム。企画・計画が思うようには進まず、かなり直前にバタバタしていた感もありましたが、なんとか自分たちで企画・計画・準備を行い当日を迎えることができました。5TC期間中は準備してきた苦労もあり、スカウトはみんな、楽しみながら、生き生きと自分達のプロジェクトを進めていたように思われます。プロジェクト・地区VS運営は確かにしんどくて面倒くさい部分も多々ありますが、それを達成した時の充実感・自信・協調性など数えきれない人としてのプラスの要素が、今回の5TCで行ったプロジェクトを通して、自然と身につけれたのではないかと思います。引き続き、燈台役をしながら、彼らを見守っていきたいと思います。

豊中第２団 BS 隊　隊長　豊田瑠亥

第5回豊中地区キャンポリーを終えて

今回の第5回豊中地区キャンポリー(5TC)は、私にとって隊長になって初めての夏の長期キャンプでした。ボーイ隊はこの1年間をこの5TCに向けて活動し、ボーイ隊の基本である班活動を中心に、スカウト達自身で考え、活動を行ってきました。1年の最初の方は班としての行動もなかなか出来ず、問題は多くありました。その問題をグリンバーと話し合い、少しずつ解決していき、理想の班活動に近づけていきました。そのようなことが出来るようになったかなと思ったのは、5TCの1ヶ月前くらいだったと思います。行くまではスカウト達が考えて行ってきたことが成果として出るか、楽しみと不安でいっぱいでした。結果としては、5TC期間中も班長を中心に活動を行い、計画していた工作物をすべて完成し、生活していました。計画していたものを完成させてからも、使用しながらより良きものに改良等も行っていました。スカウト達は理想のスカウトキャンプを行ってくれたと思います。

それ以外でもキャンポリーナイトでのおらが班という、自分の班の自慢を豊中地区のボーイ隊、ベンチャー隊の指導者・スカウトの前で発表するというプログラムでは、2団のカモレッド班が優勝しました。このような人前で発表することは2団のボーイ隊のスカウトが苦手とするものでした。班活動を行っていく中で、スカウト達自身で話し合い、相談する機会を多く持ったことによって、このようなことに対しても成長できたのではないかと思います。

この1年間でスカウト達は大きく成長してくれました。そして、そのスカウト達と活動できた指導者も成長できたと思います。5TCはボーイ隊みんなにとって、これからのスカウト活動を行う上で、大きな経験になったと思います。

最後にスカウト達に一言。大きく成長した姿を見せてくれてありがとう！

カモレット班　岡田尚之

8月10日から1週間、豊中地区キャンポリーに参加しました。行く前は七日間がんばれるのだろかと不安も有りましたが、終わってみてから振り返るととても充実し楽しむことができました。

七日間、様々なことがありましたが、一番印象に残り楽しかったのは五日目に行った、場外プログラムの水郷めぐりです。朝、キャンプ場を出発し、バスに乗り2時間あまり、近江八幡に到着しました。それから、十分ほど歩き、程なく神社にたどり着きました。とても、清々しい気分になりました。その後、かわらミュージアムに行きました。いろんな国々の瓦が有り、珍しかったです。

神社で昼食を食べ、待望の舟に乗りました。舟に乗ると涼しくてとても気持がよくなりました。

キャンポリーは、期間も長くて疲労もありましたが、いろいろな体験もすることができましたし、楽しいこともたくさんあり、すばらしい七日間でした。

カモレッド班　大田康平

初めての長期キャンプ

今回の夏のキャンプは豊中地区のキャンポリーで、多くの人といっしょにキャンプをしました。いつものキャンプとは違って、6泊7日の長期キャンプでした。だから、門や洗い物台などの野営工作物をいくつか作りました。かまども立ちかまどを作って、それを使って料理しました。そのために、春キャンプが終わったころから、班で何を作るか、どんな材料がいるかを話し合って決めました。班集会も2回開いて、工作物の作り方の練習をしました。

今回は、設営が3日間もありました。1日目は本テント、倉庫テント、フライをたてて、立ちかまどを作りました。立ちかまどは少し結ぶのがゆるくて、ぐらついてしまいました。

2日目は門、物干しざお、薪置き場を作りました。薪置き場はたおれそうだったけど、麻ひもで補強したので、こわす時までもちました。

3日目は洗い物台を作りました。これはよく使うので、高さもしっかり合せました。洗い物台は金網の下にブルーシートを釣るしているので、汚水の処理が楽になりました。

今回作った工作物は計画や準備が大変だった分、キャンプ生活で使ってみると、すごく便利でした。

設営以外にも、水鉄砲や場外プログラムも楽しかったので、5TC はとても良い経験になりました。

カモレッド班　金子　航

盛り上がった！ゲーム大会

僕が行っていた4日間の中で一番印象に残ったのは、2団、5団合同ゲーム大会でした。

まず、1回目のゲーム大会でやった一つのロープ結びで、ぼくは、「うしろで本結びをする」をやりましたが、上手く出来ず苦戦しました。僕は、「あ、やばい」と思いました。でもすごくがんばりました。そしてやっとできました。だいぶ時間がかかったけどがんばりました。この勝負は、2団が勝って前のゲーム(なにをやったかわすれてしまった。)と合わせて20－0で勝っていました。　この時僕は、「勝った！」と思いました。次のゲームのしっぽ取りを2回やりました。1回目は、全員取られました。2回目は、僕ががんばって逃げたけど、取られて全員OUTでした。このゲームは、5団が勝って20－20の引き分けになりました。最終ゲームは、人間カーリングでした。ぼくは、「嫌だな～」と思いました。結果得点がかせげれず、20点差？で逆転負けしました。ものすごく悔しかったけど、それ以上に楽しかったです。

2回目のゲーム大会は、混合チームのチームを決めるため、2団の定番ゲーム？のたけのこにょっきゲームをしました。僕は、川邊君とカラス班の次長(名前は忘れてしまった)と同じチームでした。チーム名は、男女チームでした。チームを決めたあと、また人間カーリングをしました。僕は、「またかよ～」と思いました。でも今度は、豪華プレゼントありだったので燃えてきました。自分のチームは、すごく良かったので「勝てる‼」と思ったけど、結果は、案の定、100点差で、負けました。豪華プレゼントは、オレンジジュースとリンゴ又は、梨が1つ選べました。僕は、梨を選びました。梨は、ものすごく美味しかったです。このゲーム大会で、5団と色んなゲームができて良かったです。負けたのはもすごく悔しかったけどかえってすごく楽しかったです。

カモレッド班　中西大和

僕が,5TC の中で一番、楽しかったのは、水郷巡りです。なぜかというと、とても涼しくてゆったりとしていたからです。

最初は、とても暑かったけど船を漕ぎ出していくうちに、涼しくなっていきました。特に、干潟の所が涼しくて生き物が、たくさんいました。暑かった5TCも、水郷めぐりのおかげで涼しくなりました。

もうひとつ楽しかったことが、ありました。それは、キャンポリーナイトです。

なぜなら、たくさんの友達ができたからです。全員で 8 人の友達ができました。名字が一緒の人や、趣味がいっしょのひとが、いました。たくさんの人と友達になれてよかったです。

とても楽しい 1 週間になりました。

豊中第 4 団 BS 隊

最初の3日と最後の4日

ロー・ジャスティン

今回僕はキャンポリーで、初めて班長の役目をしました。最初の 3 日間は班員が3人だったのでまとめるのは簡単でしたが、一人一人のやらなければならない事が多かったので大変でした。逆に最後の4日間は班員が8人に増えたので、一人一人のしなければならない事は減りましたが、こんなに大勢の人をまとめるのは難しくなりました。

どっちの方が簡単かと聞かれたら、最初の3日間を選びます。なぜかというと、最初の3日間と最後の4日間は生活の仕方が全く違うからです。最初の 3 日間は少人数のやり方で、最後の4日間は多人数のやり方で生活しました。これは多人数のやり方が難しいという訳ではなく、少人数から多人数のやり方に合わせるのが難しかったという事です。多人数の方が、人が多くて楽しかったです。

5TC に参加して

大川　在浩

5TC についての第一の感想は“楽しかった”です。いつものキャンプと違い、立ちかまどを使って料理しました。また最初仲間は自分を入れて3人だったのが、後から8人になったことです。

このキャンプを通じて分かった事はたくさんあります。いままでやっていたキャンプは本当のキャンプではなかったということも知りました。今まではテントは自分で張っても、かまどはキャンプ場のしっかりしたものを使います。他にも分かったことは家ではご飯をお母さんが作ってくれて、自分は何もしなくてもいいが、キャンプではすべてしかも火も調節しながらなのでとても苦労し、お母さんはいつも作ってくれてすごいなと思いました。

5TC のあとは大阪キャンポリー、これからが楽しみです。

5TC に参加して

岸本　昌大

僕は、用事があってキャンポリー大集会からの参加でしたが、ものすごく楽しめました。

今回のキャンプは、ほとんどリーダーがサイトに入ってこなく班キャンプみたいでしたが、ごはんも時間を決めてやったり、夜もささっと寝れて朝もしっかり起きれたし、しっかりしたキャンプだったと思います。

班の役割もしっかりしてみんなで協力できたかなーと思います。早くご飯を食べ終わった人がなべとか洗ってくれてどんどん次の事ができていたと思います。

年もみんなあまりはなれていない人たちばかりだったので、みんなで一つの話題で話せたのでよかったです。

最後の方になってくるほど、もっとここにいたいなーと思うようになったのがいつものキャンプより強かったです。

9月からまた新しい班での活動が始まるけど、今回のキャンプのムードで活動できたらいいなーと思います。

僕の5TC

長尾　洋祐

ぼくは、5TC でいろいろな思い出ができました。

一番楽しかった思い出は、2日目に行った温泉です。露天風呂でゆっくりしているときに、一般の人と思われるおじさんに「長尾！」と言われてとてもおどろきました。でも、温泉のお風呂はとても気持ちよかったし、あがったときはとてもサッパリした気分になりました。

ベンチャーの人と水鉄砲で遊べたこともいい思い出になりました。たくさんの人からネッカチを取れ、こっちのチームも何回か勝てたのでとても楽しかったです。それと、野球もしました。なんと、押し出しの四球が3つも出てしまう試合になりましたが、ベンチャーの人と遊べてとても楽しかったです。

しかし、反省すべき点もありました。個装が乱れていたり、きびきび行動していなかったりしました。それについては、どうしたら同じ間違いをしないか、これから考えていきたいと思います。

ぼくは5TC に参加してよかったと思います。この5TC で学んだことを、これからの活動にいかしていきたいです。

5TC に参加して

細川　大我

私は今回行われた5TC には13日から参加させていただきました。

WSJ から帰ってきてから5日もなく、最初はかなり暑く、時差ぼけも抜けきっていなかったため、例年よりキツかったのを覚えています。

雰囲気は、去年の日本ジャンボリーのような感じでした。例えば…各隊のサイトがあり、首に ID カードを下げ、配給へいくところなど。

私たちの隊は最初から参加している3人と後から参加した5人の合計8人で、私とジャスティンが最年長でした。

途中で二人ほどダウンすることがありましたが、大きなケガや事故等はありませんでした。

閉会式で流れたムービーを見て知ったのですが、前回のキャンポリー、つまり4TC は6年前に開かれたそうです。次回の6TC はいつどこで開かれるのでしょうか。

もうすぐ9月。これからもがんばってスカウトやらせてもらいます。細川大我でした。

たのしかった5TC

米田　彩乃

わたしは豊中第4団の米田彩乃です。わたしは5TC の13日から参加しました。わたしの団はわたしをふくめて8人でした。今から4日間で特に楽しかったことを書きます。

まず1日目で楽しかったことはキャンポリーナイトです。なぜかというと、たくさんの他の団の人たちと仲良しになったからです。また活動しているときに会えたらいいなと思います。またやるきかいがあったらやってほしいと思います。

次に2日目で特に楽しかったことは、4団のみんなで巨大めいろをつくったことです。とても楽しかったです。

3日目の閉会式のとき、3泊4日ってあっというまだなと思いました。

5TC はとても楽しかったです。次は全部参加したいです。

5TC

橋本　祐介

8月13日に、グリム冒険の森（滋賀県）に行きました。

他の人は、8月10日に行ったけどぼくは、8月13日に行きました。

そして、着いた時に人がたくさんいてびっくりしました。

5TC の詩みたいなのがありました。

「5TC たーのーしくなってー　5TC いまうーたいーたいー　5TC たーのーしくなってー　5TC いまつーたえーたいー・・・」です。

何回も何回もうたっていて、あきないんだなーと思いました。5TC の詩にたいこうして4団でクリアアサヒをうたいましたが、声の大きさで圧勝しました。

初めは3人で5TC をうたっていたけど、1人帰って2人でうたっていてたいへんそうでした。5TC はとっても楽しかったです。

キャンポリーに行って

大川　在秀

キャンポリーに行く時には、すごくドキドキしていました。一週間もキャンプに行った事がなかったからです。千里中央についてまもなく、重い荷物を背負って、バスのところまで歩きました。バスの中に入って一番後ろの席に座りました。バスは何分走っただろうか。何時間走ったかわからなくなったころに、ようやくサービスエリアに着いた。サービスエリアでお昼ご飯を食べ、またバスに乗り込みました。

乗りこんでからすぐ「グリム冒険の森」と看板が現れ石のじゃり道にバスが止まりました。バスが止まり荷物を背負い歩きました。歩いていくうちに広い草原が見え、くいが打ってあり道ができていました。一番はしっこらへんにあるサイトを指さし「ここが4団の場所やで。」といわれ、「この場所で1週間過ごすのかぁ」とその時思いました。

テントをたてたりしていくうちに、他のサイトもポツポツと出来あがっていきました。ようやくサイトが出来たときには汗びっしょり日はかんかんでりでした。そのままお弁当を食べ1日目は終わりました。

まだ暗いうちに起きて食事をすませ、プログラムをし、昼食を作り、プログラムをやり、ばんご飯を作ってねる。そんな日々を3人でがんばってやっていき、キャンプ生活になれた時に、とちゅうから5人来ました。3人の時は遊ぶといっても2人しかいなかったですから5人に増えて遊べる相手が多くなりしかもご飯を作るのに8人もいるので、手間がはぶけるようになりました。

この一週間の中でのモットーは「遊ぶときは遊ぶ、やるときはやる。」というモットーができました。この一週間で物事の大切などが分かったと思います。いろいろありましたが楽しかったです。

5TC に参加して

豊中第 4 団 BS 隊　岸本　昌大

僕は、用事があってキャンポリー大集会からの参加でしたが、ものすごく楽しめました。

今回のキャンプは、ほとんどリーダーがサイトに入ってこなく班キャンプみたいでしたが、ごはんも時間を決めてやったり、夜もささっと寝れて朝もしっかり起きれたし、しっかりしたキャンプだったと思います。

班の役割もしっかりしてみんなで協力できたかなーと思います。早くご飯を食べ終わった人がなべとか洗ってくれてどんどん次の事ができていたと思います。

年もみんなあまりはなれていない人たちばかりだったので、みんなで一つの話題で話せたのでよかったです。

最後の方になってくるほど、もっとここにいたいなーと思うようになったのがいつものキャンプより強かったです。

9月からまた新しい班での活動が始まるけど、今回のキャンプのムードで活動できたらいいなーと思います。

私の5TC

豊中第4団 BS 隊々長　小園悠記

今回の5TC、私の隊長としての初めての夏季キャンプでした。前回の4TC では、高校受験を控えていたので参加できず悔しい思いをしている分、スカウト以上に楽しんでやろうと企んでいました。

4団 BS 隊は、参加8名という所属20名からすると多少残念な人数ではありましたが、それでもスカウトは自分の出来ることを真面目に、そして楽しくこなしていたかと思います。5TC から3ヶ月程経ちましたが、スカウトには大きな変化がたくさん見られます。その「変化」をこれからも私は楽しんでいきたいと思います。

豊中第 5 団 BS 隊　植田　優父太

滋賀県の「グリム冒険の森」にやってきました。グリムの森は空気がすごくいいし、新鮮でした。三日間が設営で後はプログラムというのが本来の予定でしたが、僕たちは違ったのです。

設営というのが大きすぎて、それだけに時間が過ぎてしまい本来の予定をグダグダにしてしまったのです。今回のサブテーマのスローライフというテーマさえも実行できず、理想の仮キャンプサイトを何とか作り上げる事はできましたが、課題は多いです。

今回の感想は、自分たちがすごく時間にルーズでした。瀧山隊長があれほど僕たちにおっしゃられてるにも関わらず、やらなかった失敗はすごく大きいと思います。

自分の指示の仕方が全て悪かったと感じます。僕の指示の出し方は、先々の事を見通しながら指示が出来ないという、課題があります。これから、このような失敗を起こさないように、起こさせないようにするために、これらのような反省をして自分で振り返るようにして、これからの活動を続けていき、これを周りの人にも教えていけるようにしたいです。

豊中第８団 BS 隊

「一週間のキャンプ」

8団　イーグル班　遠藤　匠

最初の日は荷物をいぶきにはこぶのがじゅうろうどうに感じましたが、まだこれが朝めし前だったことかと思うと後で、書けないから、このことはわすれて書きすすめましょう。

グリムの森について、荷物をはこぶときはあついし、にもつは重いから、はやくテントをたてて、はやく休みたいなと思いました。開会式をやって10日はここまで。

11日は立ちカマドを作ったり、ポリタンクをのせる台なんかを作ったりしました。あと排水作業もはじまったから、水がたまったかどうか見てないと排水するときにこまるため、とてもはらはらします。できるだけ見ていないとひどい目にあうからです。

12日は、場外プログラムで近江八幡に行きました。かわらミュージアムでとうげいをしました。あと三日ぶりのおふろに入りました。

13日はキャンポリー大集会があって、ていてつ投げをたんとうしましたが、大集会が終わってVSの人がやってきて「これいがいにむずかしいけど」といってやってきました。キャンポリーナイトもたのしかったです。

14日は日野町を見て回ったこととプールにはいったことです。

15日は、おもに必要ないものをしまうことでした。そのときなべを洗うのにてまがかかって、手もよごれたし、時間もかかったため、めんどくさかったと思いました。

16日は、全部かたずけるのに結構時間がかかりました。そのつぎにしたせいそうがまたけっこうはでで、いがいだなと思いました。そのあとバスにのってかえりました。たのしかったです。

「5TCで知ったことできたこと」

8団 イーグル班　小畑　拓実

ぼくは、都合があって5TCには13日から参加しました。最初のキャンポリー大集会では、いきなり役を言われて少しとまどったけど、すぐに慣れました。店から客がいなくなって、客を呼ぶのが大変でした。

料理では、ご飯のかたさをみるのは、熱くてやりにくかったけど、上手だと言われたり訓練キャンプの時より早く決めれてよかったです。 キャンポリーナイトの友情ゲームでは、9人の人と知り合え、交流できて、思っていた以上に楽しいゲームでした。

2日目のスカウト平和の日のセレモニーでは、地震の被災者たちのことや、地震・津波のおろかさを改めて考えれました。

日野町内散策をしたときは、似てるけど全部「形」や「色」のちがった山車（だし）がたくさんあって、よくもこんなに山車の装飾が考えつけてすごいと思いました。近江商人館では、そこでしか見られないようなすごい物をたくさん見れて楽しかったです。1本の柱や天井や「しょうじのさん」にすごいお金をかけているのに見た目が普通の和室に見えるのが不思議に思えました。

キャンプ場で水をくんだり、すてるのは訓練キャンプの時にしたのでやりやすかったです。作ったドーナツを他の団にあげたり、他の団が作ったクラフトをもらったりして他の団・班と交流し合うことができていい体験になったと思います。

3日目は、テントをたたんで、ターフを立てました。昼はキャンプ場にいて初めて大雨が降りました。テントはいったんびっしょりになってしまったけど、また晴れたので乾きました。雨が降ったら荷物をターフの中に入れたり、テントの干す向きを変えたり大変だからもっと対策を考えたいと思いました。

次のキャンプでは、もっと早くご飯を食べて、長く行動ができるようにしたいです。

「キャンポリーの思い出」

8団 イーグル班　増田　敦士

ぼくは、キャンポリーで思い出ができました。それはかわらミュージアムでおにっ子を作ったことです。

ぼくがわからなかったことを名人が親切に教えてくれて、そのおかげでおにっ子が上手に作れました。早くおにっ子を家にかざりたいです。

もう1つの思い出があります。
それは自然の中で、キャンプをすることです。多田キャンプ場とちがって、地面に草がはえていました。めったに自然の中でキャンプができないので、きちょうな体験ができたのでうれしかったです。

7日間キャンプして、楽しかったです。

豊中第 15 団BS隊

谷口　明弘

8月10日～16日に滋賀県のグリム冒険の森に6泊7日、キャンポリーに15団では、森君と、石那田君と行きました。

1日目、テントを張りました。ドーム型テントなので、早く建てれると思っていたけれど、全然建てれませんでした。なので、3団のリーダーに手伝ってもらい、やっとの事で建てれました。

2日目立ちかまどを作りました。立ちかまどは、順調に出来ていたが、完成すると傾いていてグラグラだったので、1回壊してもう一度作り直しました。

2回目はまた3団のリーダーに手伝ってもらい出来ました。

3日目、乗馬体験をしました。馬は大きく筋肉は硬かったし、レーンは一番長いので、2，5kmでした。良い体験も出来たし、馬の事が少し分かったような気がしました。

4日目、キャンポリー大集会がありました。15団は、ビー玉アートをしました。最初、「あまり人がこないと思うなぁ。」と、3人で言っていました。すると、意外にカブがいっぱい来てくれました。うれしかったです。

夜はキャンポリーナイトがあり、班の自慢の話をしました。僕達は、ノリが良い所と、チームワークが良い所を発表しました。

次に、新しい友達を作るゲームをしました。好きなスポーツを聞いたりなど、いろんな人と友達になれました。僕は14人も出来ました。

5日目、カヌー体験をしました。カヌーは初めてで、出来るか分からなかったけれど、上手に出来ました。けれど、雷注意報が出て、少ししか出来ず残念でした。

6日目、最後の日は、テントをたたみ、立ちかまどをくずし、キャンプが終わりました。

僕はみんなと、「もう少し長くても良かったのに。」と言っていました。僕達は人数が3人だったけれど、いろんな人と友達になれたし、楽しい思い出も出来たので、良かったです。

早く2級を取って、ジャンボリーにも行きたいです。

豊中第 16 団 BS 隊

「5TCに参加して」

隊長　岡野　富雄

隊として昨年の10月から取り組んできた第5回豊中地区キャンポリー（5TC）が無事終了できましたことに関係各位に感謝申し上げます。

今回は8団16団合同班として参加しました。班長以外のスカウトが全員小学6年生でキャンプができるのかがテーマの一年でした。そのため3回のキャンプ（延8日間）を行い準備してきました。氷の張る寒い時もありました。準備のためリンツーで寝るときもありました。これらがスカウトの自信となり、6泊7日の5TC を楽しむことができたと思います。

場外プログラムでは、近江商人のふるさとを2回にわけて訪ね、スカウトとして何かを見つけるときとしました。近江日野商人館では館長からていねいな説明をいただき、何かスカウト活動に繋がるものを感じました。商人の経営理念「慎みの心を」として、まず謙虚な人間になれ、社会奉仕の実践を、「お蔭様で」の心を持て、とにかく誠実であれなど家屋の建設で実践したことを中心に説明をしていただきました。また地域の暖かい歓迎をいただきました。

暑かったけど自然の中で、少しづつ成長していくキャンプ技能。特に火起こし・炊飯・調理などでは進歩がみられました。班のテーマソング「かえるの歌」も元気に毎日歌い通すことができました。

今回のキャンプをとおして感じたことを大切に、各自それぞれの思いを伸ばしていくことを期待します。

天秤ぼうや(日野町資料から抜粋)

16団ボーイ隊・カブ隊副長大藪ますみ

私は去年9月からボーイ隊副長になり、今回初めて長期キャンプに参加しました。とはいえ、後半3泊はカブ隊に合流し、舎営になるのでどこか気楽に構えていたのかも知れません。

猛暑の時期に蒸し暑い場所でシャワーが使えない環境は思った以上に過酷でしたが、今になって思えばいろんな不便をスカウトたちと乗り越えた体験は貴重だったと思います。

うちのスカウトは6年生がほとんどでしたが、5TCのために正月や春休みなどに少しずつ立ちカマドを作ること、テントを建てること、火をおこすこと、給水、排水を運んで使用するなどの練習を重ね、去年までカブ隊だったスカウトたちが1年で立派に6泊のキャンプを乗り切るまでに成長できたことは、カブ隊入隊の頃からスカウトたちと関わってきた私には感激の極みです。

中2のわが娘も家では強力な姉に仕切られてる妹の立場であるのに、今回は班長として2つ年下の男児の集団をぶつぶついいながらまとめている姿は面白くもあり頼もしくもありました。

5TCに関しては準備段階から不安要素はありましたが、今回全体的にも個人的にもこうすれば良かったと思うことはきちんと記録して次回のキャンプに活かしていきたいと思います。

隊長をはじめ、一緒に活動させて頂いた8団の隊長や先輩リーダーに、準備キャンプの段階から勉強させていただいたことがたくさんあり、心から感謝しています。

キャンプから帰って1週間、暇があれば寝てばかりで疲労の深さと自分の無理のきかない年齢をしみじみ感じましたが、他の団のスカウトたちと行きのバス車中で騒いだり、ベンチャー主催の水鉄砲合戦でいろんな団のスカウトとびしょびしょになって遊んだり、忘れられない思い出が深く心に残る夏になりました。

快く二女と私をキャンプに送りだしてくれた夫と受験生の長女にも感謝です。みなさん本当にありがとうございました。このような体験を重ねて私自身もっと役に立つ指導者になっていきたいし、2年後のジャンボリーには是非参加したいです。

「新たな出会いと成長」

たか班　班長　大藪　梓

私は昨年、第15回日本ジャンボリーに参加してとても良い経験をさせてもらいました。豊中にはこんなに楽しい仲間がたくさんいるのだと気付くことができました。そして今回のキャンポリーも、新しい出会いや仲間との再会を期待し、参加しました。キャンプ場へ着くと、少し歩けば知り合いに合えるような環境で、ここで集いキャンプをする喜びを見つけました。

勿論キャンプ期間中ずっと楽しかった訳ではありませんでした。私の班には同年代が私と友達しかいなくて、その子は今回不参加だったので1人で8人の小6男子をまとめていました。二つ下の男の子ばかりで色々な苦労もあって、出来る限り班サイトにいたくないと思っていました。だけどジャンボリーでできた友達、このキャンプで新しくできた友達が私を見つけると笑顔で私の名前を呼んでくれ、たいした話でないのに何分も会話していた事が最後まで私を支えてくれたと思います。だから私は、私と会話して笑ってくれた仲間全員に心の底から感謝しています。そして心の底からまた会えることを願っています。本当にありがとうございました。

ボーイスカウトの活動は、技能を修得していなければ、よく考えたら一般の人々でもしていることがほとんどです。だからボーイスカウトに入ってキャンプをする意味はなになのかと考えました。そして昨年のジャンボリーで、仲間とすることに意味があるのだと気付くことができました。そして今回のキャンプでそのことと、仲間の大切さを再確認できました。

長ければ長い程くるしいけど楽しく、すればする程自分を成長させてくれるキャンプが私は大好きです。これからもたくさんキャンプに参加したいです。

「かわらミュージアム」

たか班　久保　颯太

ぼくが5TCで一番思い出に残っているプログラムは、16団と8団だけでいった滋賀県の近江八幡という所にあるかわらミュージアムです。そこでは、かわらで何かを作ったりする体験工ぼうというものをしました。

ぼくはそこでおにっ子と言うキャラクターを作りました。おにっ子は、最初型わくにいれて、丸っこい形にします。ぼくは、まず型わくに、入れるのがひと苦労でした。なぜなら、型わくが二つあって、それをくっつけて丸い形にするからです。合わせたときちっともすき間がないようにしないといけないからです。ぼくはちょっとだけすき間があいてしまって、どうしようと思っていたらそこの先生みたいな人がきれいになおしてくれたのでよかったです。

次に、目・鼻・口・手を作る作業です。目はストローで目をつけたい所にさしました。鼻は、ちょっとむずかしかったので先生にやってもらいました。ぼくが鼻をつけようとしたら何回もしたら何回も失敗をしたのでやってもらいました。口は、ナイフで口の形を切りとりきした。手は、型わくにねん土を入れて作りました。そして胴体にくっつけました。思いのほか早くできたので、羽をつけて完成です。完成品が早く焼けて、家にとどくのをいつもたのしみにまっています。

「8月10日～8月16日」

たか班　原田　太樹

2011年8月10日青年の家いぶきに集合し、滋賀のグリム冒険の森でキャンポリーは始まった。このキャンポリーを僕は心待ちにしていた。僕はわくわくしていたが、とにかくカバンが重い。最初は荷物運びやテント張り、つまらない事ばかりだったけど、他の団のスカウトを見てやる気がでてきたが、あまりの暑さに気絶しそうだった。このキャンポリーの中で特に楽しかったことは、かわらミュージアムでの粘土の焼き物。それに温泉は今までのつかれを少しおとせた気がする。この焼き物を夏休みの作品展に出してやろうと、頭をよぎったが焼き上がりが一ヶ月後だと聞きぼくの陰謀はあっさりと消えた。せいいっぱい楽しんだのは、プールだ。泳いでいる僕は、あたかもイルカのようだった・・・かもしれない。ぼくはビート板とまちがえてハンマーちょうだいと言ってしまったのだ。けっこうはずかしかった。はずかしかったと言えば、ダムとびわ湖をまちがえたことだ。やっと帰る日、いつ持っても一週間分の荷物は重たいものだった。それよりもっと重たいのが、うきうきドキドキワクワク感謝の四つの気持ち。バスに乗る前この気持ちを全て、グリム冒険の森に預け、バスは発車した。僕はトイレそうじだけは、人一倍努力したはずだ。

「5TCに参加して」

たか班　狩谷　将太

8月10日から8月16日まで滋賀県日野町にあるグリム冒険の森でボーイスカウト豊中地区結成35周年記念行事、第5回豊中地区キャンポリーに行きました。

キャンプではみんなすごくフレンドリーで、ちがう団でもふつうに話したり、いっしょに遊んだり、記念品を作ってプレゼントしあったりしました。みんな兄弟のように仲が良いから、参加者が全員集まるキャンポリー大集会や閉会式はすごく一体感があって楽しかったです。

他に心に残っているのが炊事のことです。最初のごはんはかなりしんがあっておいしくなかったけど、みんなでくふうしあったり、隊長に教えてもらったりしながら一日一日上達していき、キャンプの後半は「かたすぎずやわらかすぎず」すごくおいしいごはんが食べられてよかったです。

キャンポリーで特に心に残っている楽しいことは2つあります。

1つ目は、かわらミュージアムという所で体験させてもらった陶芸です。大体の人は丸っこい形になる型を使って、そこからドラえもんやおにっ子にしていきます。ぼくは型なしの小さいおにっ子を作りました。かわらミュージアムの方に教えてもらいながら作ります。すごいなと思ったのが、何でできているのか知らないけど、陶芸用ののりがあって、鼻や歯、耳、つのなどをつけるのに使います。少しづつ形ができていくのが楽しかったし、だんだん愛着がわいてきました。家に届くのが楽しみです。

2つ目は、ベンチャースカウトのプログラムです。水鉄砲のうち合いやゴム鉄砲を使った射的などすごく楽しい遊びをきかくしてくれてみんなで楽しめました。

今回のキャンプはすごく楽しかったです。その中で、いろんなことを学べたのでよかったです。またキャンポリー行きたいです。

「第５回豊中地区キャンポリー」

たか班　中内　辰之介

８月１０日から８月１６日までの７日間の第５回豊中地区キャンポリー（５TC）があり、ぼくはそれに参加しました。

最初の日、いぶきに集合し、バスに乗り、滋賀県のグリム冒険の森に行きました。

まず何もない所から、タープをたてたり、ドーム型テントを立てたりしました。

開会式は午後７時に行われ、黒田大会長の言葉によって５TCが始まりました。

２日目は午前８時に始めての朝礼・点検が行われました。

３日目は午前８時３０分に近江八幡に向けて出発しました。そこで陶芸をしました。そこでドラエもんを作りました。とても楽しかったです。次にこのキャンプで最初で最後の温泉に入りました。久しぶりに入ったので気持ち良かったです。

４日目は、朝起きて、昼食を食べた後、午後１時からキャンポリー大集会を行いました。これは、カブスカウト・ビーバースカウトを、かんげいする会みたいなものです。その後、お店を開き、ゲームをやってもらいました。８７人も来てくれたことがうれしかったです。その後午後７時からキャンポリーナイトをしました。それでまず第一に、各班の良い所を紹介していきました。きんちょうしました。次は友達ゲームをしました。知らない人の名前などを知り仲良くなるゲームです。楽しかったです。

５日目は、まずスカウト平和の日というのをしました。東北のひさい者のことを深く考える事が出来ました。その日の昼食はひさい地のかまぼこ店の「かまぼこ」と「ふ」が入ったみそしるでした。おいしかったです。

６日目は、外でねました。

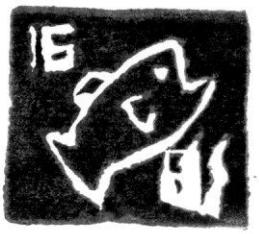
７日目は、徹営しました。キャンプはしんどい事もあったけど、何よりも楽しかったです。

「第５回豊中地区キャンポリー」

たか班　坊農　俊浩

８月１０日から８月１６日までぼくは、滋賀県のグリム冒険の森にボーイスカウトの行事でキャンプに行きました。今回のキャンプでいんしょうに残ったことは、プールとホテルのおんせんです。プールではみんなとビート板であそんだり、おにごっこをしたのが楽しかったです。ホテルのおんせんは、みんなといっしょに入ったのが楽しかったです。キャンプでは、最初にテントをはってカマドを作りました。キャンプ中に他の団の人とゲームをしたり、あそびに来たビーバースカウトやカブスカウトとゲームをしました。小学校最後の夏休み、楽しい思い出に残るキャンプでした。

７日間キャンプして、楽しかったです。



豊中第 17 団 BS 隊　コブラ班　光末　慈瑛

8月10日から16日までキャンポリーがありました。6泊 7 日のキャンプは初めてだったので、最終日までちゃんと生活できるか心配でした。

そんな心境の中キャンポリーが始まりました。

キャンポリーでは、苦難の連続でした。自分たちでご飯を作るので、野菜の切り方がわからなかったり、まきを無駄にしてしまったので、後で節約して使わないといけなくなったり、米は飯ごうで炊くので、ふたを取るタイミングが難しく、ほとんどがかたいご飯になってしまいました。

作業をしている間は日差しが強く、ものすごく暑かったので、気絶しそうでした。いそがしくて、遊ぶヒマもありませんでした。しかも、それを上回るほど嫌な事がありました。それは、滝へのハイキングです。おどろくことに、そこにはヒルがたくさん生息していました。出発前に、体が見えないように、テープで軍手とそでをつなげたり、ヒルが足に入っても大丈夫なようにビニール袋をはいたり、「ここまでするか？」と思ってしまうくらいの完全装備でした。

滝までの道は、すごく険しかった。到着までに 3 回はヒルに靴の中に入られ、滝に着いて「ヤッター！！」と、心の中で思っていたら、足元をよく見ると、ヒルがたくさんいました。僕はだだでさえ、虫や気持ち悪いものが嫌いだというのに、目撃するどころか、くつの中に入ってしまうなんて…！「もう帰りたい!」本気で思っていました。出発地点に戻り、もしやと思いくつの中を見ると、またもやヒルでした。《マジびびった‼》

班サイトに戻った時は、ものすごく安心しました。今回のハイキングは、僕にとって、とても大変だったけれど、服装などの注意点を教えてもらえ、とても勉強になりました。

このキャンプでは、野菜の切り方・飯ごうで、水が完全に無くなるまで米を炊くと、かたくなること・マッチでの火の付け方・まきの保管方・ロープとバク材だけで、様々な物が作れるということを学びました。

本当に、キャンポリーに来て良かったなと思います。

すごく楽しかったです。

豊中第 18 団 BS 隊　タカ班　班長　前田高志

楽しさNo1

僕はこの5TCにT18 タカ班の班長として行きました。一番最初の班サイトを作るときはとても暑くてしんどかったので『イヤだな～』と思っていたけど友達や班員と遊んだり、VS提供プログラムをやっていくととても楽しかったです。ベンチャーサイトが隣りなので自由時間の時にベンチャーを誘ってドッジボールをしたりしました。

今までの野外炊事はとても難しいと感じてたけど班長になって班員に指示を出しながら料理をしていくと昔ほど苦労はしませんでした。でも作りすぎた料理を食べるのはかなり大変でした。

キャンポリー大集会でタカ班はコップでシャッフルして、どのコップにアメが入っているかを当てるゲームをして、僕はシャッフルが下手だけど班員の中で一人とてもうまい人がいて、カブ隊も楽しんでいたのでよかったです。

18団は隊プログラムで安土散策をしました。自転車をレンタルし、信長の館などを見学しました。金ピカで大きな安土城の模型があり、階段で二階へ上がり中を見学できるようになっていました。とにかく建物の中は，クーラーがきいていたのでとてもうれしかったです（笑）。

たいへんな事もあったけど、たくさん遊べたので今までのキャンプの中で一番楽しいと思いました。

豊中キャンポリー

豊中第 20 団　佐藤　萌

私は、8月10～8月16日までの7日間がとても楽しかったです。1日目は、開会式。2日目と3日目は、雨乞岳登山。4日目は、キャンポリー大集会とキャンポリーナイト。

後の三日間はわりとのんびり過ごしました。その中で一番しんどかったプログラムはやっぱり雨乞岳登山です。荷物を背負って急な坂を登り、ザイルを使ったり、沢や自分達やリーダーより背の高い笹の中を歩いたりしました。中には、蛇にかまれたり、沢に足がはまった人もいました。しかも、その山にはヒルがいて、ヒルにかまれると血が止まらなくなります。わたしは、右手の指と指の間をかまれましたが、その日はまだヒルが少なかったし、ちゃんと予防をしていたので、ヒルにかまれた人の方が少なかったです。そして、なんと夜は、ブルーシートで寝ました。

朝起きたときは、虫に刺されたあとがいっぱいありました。下山した時には、アスファルトが懐かしく感じました。色々ありましたが、楽しかったり、しんどかったりの雨乞岳登山でした。

さて、次はキャンポリーで一番楽しかった事です。一番楽しかった事はプログラムではないのですが、ジャンボリーのメンバーに会ってしゃべった事とハイテク鬼ごっこをした事です。まず、ジャンボリーのメンバーに会ってしゃべった事についてです。私は大阪3隊のイーグル班だったのですが、そのときの班長とシェパード班だった人としゃべれて楽しかったです。次のハイテク鬼ごっこについてです。ハイテク鬼ごっことは、リーダーの持っていたトランシーバーを使った「逃走中」みたいな鬼ごっこです。とても汗をかいて、すごく盛り上がりました。

今回のキャンポリーは、色々なリーダーや隊長にとてもお世話になりました。その他にも本部の皆さん7日間お疲れ様でした。この7日間本当にありがとうございました。このキャンポリー、うれしかった事やいやだった事もあったけど、忘れられない思い出です。

豊中第 22 団 BS 隊

上級班長　住友　昴志　中3

10 日から 16 日の間、滋賀でキャンポリーがあった。ジャンボリーの時の知り合いが多かったから、とても楽しかった。ボーイ隊最後のキャンプは、とても面白いキャンプになりました。

ウルフ班　班長　西川　綾乃　中3

キャンポリーは、今までのキャンプの中で一番大変でした。それはキャンプ直前、病気で行けなくなり、途中からの参加になった事です。ビーバーやカブの為に準備していたポイントラリーの班コーナーなど、急いで班員に連絡して頼みましたが、私がいない間のウルフ班は崩壊していたらしく、色々な人に迷惑をかけてしまったようです。それでもみんな頑張り、楽しく過ごせたようで、良かったです。

ウルフ班　次長　品川　亮太　中 2

初めの4日間ぐらいは、班長が病気で遅れて来る事になり、班長として過ごしました。とても大変で、疲れました。この経験を生かして次を頑張りたいです。

ウルフ班　水口　悟志　中2

最初の4日間は、班長が途中参加となった為、次長として頑張りました。最後の撤収の時は、22団の中で一番早く撤収ができ、良かったです。

ウルフ班　松波　ちひろ　小6

初めての長期キャンプだったけど、結構頑張ったと思います。しんどい時も有ったけど、楽しかったです。

ウルフ班　西本　遼輔　小6

5TCで、ぼくは色々な経験と新しい仲間ができて最高の7日間でした。2日目の楽しかった食事会、3日目の信楽の町。タヌキだらけでびっくりしました。4日目のカブとの交流では、たくさんのビーバーやカブに喜んでもらえました。夜の班自慢大会は、他の団、他の班の良いところがわかって良かったです。友情ゲームでは、たくさんの仲間とふれあいことができました。5日目の近江八幡では、豊臣秀次ゆかりの地や、近江八幡の町を散歩しました。とても楽しくて、一日では回りきれないほどでした。僕はこの6日間のことが全部心に残っています。またいつか、このようなキャンプに参加してみたいです。

タイガー班　井内　崇人　小6

このキャンプで一番楽しかった事は、信楽温泉です。理由は、僕は毎日お風呂に入っている為、キャンプ中はお風呂にあまり入れなかったので、お風呂のありがたみがわかりました。一番辛かったのは、汚水捨てです。理由は重たく何より、暑くて臭いから、一番しんどかったです。楽しかったり、辛かった事もあったけど、この6日間キャンポリーに参加できて良かったです。

タイガー班　山本　実　小6

8 月 10 日から16日まで、豊中地区キャンポリーが有りました。滋賀県のグリム冒険の森までバスで行きました。5TCでは、いろいろなプログラムや、隊で近くの町の散策や隊で遊んだりしました。5泊6日の間では、おこられたけど、5TCに来て楽しかったから、来て良かったと思います。

タイガー班　班長　高井　華緒　中 3

5TC では楽しかったし、しんどかった。キャンプでの一週間はとても長く感じた。ジャンボリーでの友達と会えて嬉しかった。ボーイ最後のキャンプ楽しかった。

タイガー班　次長　松尾　眞宏　中 2

今回の5TCで体験したことは、すべて楽しかったです。7年に1度なので本当にラッキーだと思った。滋賀県の町を散歩したり、班サイトで生活を共にしたり、

他の団と交流したりと、日本ジャンボリーと同じくらい楽しかった。けど、5TCが終わると、この班とは最後のキャンプなんだなあと悲しくもなりました。こんないろいろなことが、ぼくの5TCの思い出です。

タイガー班　高田　夕輝　小6

キャンポリーでは色々体験できて、楽しかったです。

タイガー班　阿久根　優衣　小6

6泊7日のキャンプは、ちょっと長かったけど、とても楽しかったです。毎日色々なプログラムが出来て良かったです。また5TCみたいな体験をしたいです。

タイガー班　住友　柾志　中1

初めての長期キャンプで、最初は少し不安でしたが、2 日目ぐらいからキャンポリーが楽しくなってきました。また他の班の人達とも仲良くなってきました。カブやビーバーが来た時のゲームは大変だったけど、楽しかったです。キャンポリーは楽しかったです。

イーグル班　班長　小松　大樹　中3

キャンポリーに行って良かったことは、ジャンボリーで仲良くなった他団のスカウトと会えたことです。大変だった事は、長期キャンプでの班長は初めてだったので、班員をひっぱるのが難しかった。でも班長と言う経験ができてよかったと思います。

イーグル班　伊藤　正照　小６

ぼくは、8/10 日～16 日まで5TCに行きました。ぼくにとって5TCは初めての長いキャンプで、不安と期待が重なりあっていました。でも終わったらそんなに長く感じませんでした。たからぼくは、「アレー」と思い、家に帰ったら「宿題やらないと」と思いました。だからもうちょっと長くいときたかったです。あと、5TCでは、新しい友達もできたし、団の仲間とも、もっと仲良くなれました。すごく良かった5TCでした。

イーグル班　川口　諒　小６

5TCの 6 泊 7 日キャンプは、ぼくの体験した中でとても長いキャンプでした。重たいザックを持って、ヘロヘロになったけど、友達が「がんは゛れ！」と言ってくれたので、なんとか着きました。 暑い中、キャンプは、とてもつらかったです。他の団と、ドッヂボールもしました。友情ゲームでは、みごと1位になれて、とても嬉しかったです。5TCのキャンプで１番学んだ事は、自分から進んで仕事を見つける事です。

イーグル班　東南　百花　中1

私はこのキャンプが初めての班キャンプでした。このキャンプで学んだことは、班での協力・日々の改善などだと思います。それ以外にも、他団との交流なども学びました。場外プログラムでは、信楽の町や近江八幡の昔の景色を見れました。貴重な体験ができました　このキャンプに参加して良かったです。

イーグル班　次長　松波　翔　中２

全体的に動きが遅かった。 ご飯が失敗しすぎて、まずかった。

マムシの恐怖

犯人はお前だ!!☝

豊中第 20 団 BS 隊　永坂昂己

何故ゆえに、ぼくがマムシについて書いているのか。不思議に思う者も少なからずいると思う。それは、**咬まれたから、**である。8月11日に。だから、マムシについて書くのである。全くマムシは素晴らしい!!まあ、前置きはこのくらいにしておいて……では、このマムシ研究レポートを楽しんでご覧下さい。

1、マムシとは一体何なのか

マムシは、正式名称ニホンマムシ。クサリヘビ科マムシ属の毒蛇。その毒は、ハブの2~3倍の強さを持っている。おお、恐い怖い。全長はおよそ40～80cm。希に体長が1m 近くなる。

2、状況

滋賀県東近江市甲津畑町の雨乞岳という山で登山中にマムシを見つけて触ろうとしたところ、まあ、がっぷりと。ただのヘビだと思ってたんだよね～。そしたら、しっぽをバネに飛んできて、まあ、がっぷりと。咬まれたときはあんまり痛くなかったけど、あとからジンジン、ピリピリ、ズキズキ、ビリビリ、mぢmつき、γ ζ φ θ ✺…むちゃくちゃ痛くなってきて、☞滋賀の病院☞済生会☞4日間入院☞超巨大な血の塊が指にできる☞それをとる☞皮膚を取る☞肉丸出し☞そこを石鹸で毎日洗う…という最高の夏休みだったよ。こんなプラン普通ないよ。というか、ナイよ。

3、マムシの生態

マムシは主に小型哺乳類、小型爬虫類、両生類等を食べ、平地や山地の森林、藪に住み、**水場周辺**に多く出現する。実際に僕も10cm 程の深さの川の所でやられたのである。8月～10月は産卵期を迎えるため、歯を抜くために特に凶暴になる。なぜ歯を抜くかというと、ヘビは口からたまごを産む(らしい)。そのため自分の歯でたまごを傷つけてはいけないから、歯をやたらめったら抜こうとする(らしい)。だから産卵期は要注意である。というか、ヘビは触るな。

4、マムシの実態

まず、一般的に「ヘビ」と呼ばれるのは、動物界脊索動物門脊椎動物亜門爬虫網有燐目ヘビ亜目(覚えて打つのに苦労した)の生き物で、マムシはその中のクサリヘビ科マムシ亜科マムシ属に所属する。一般的に毒ヘビは頭が三角といわれているが、マムシはあんまり三角ではない。研究者の中には神経毒が無いとする人もいるが、ふざけんなよ。中指の感覚ヤバイよ。麻痺状態だよ。痛みしか感じないよ。どうしてそんなこと言えんの？咬まれてみろやバーカ。…ちょっと感情が入ってしまったけど、ま、とにかく神経毒がひどい。

5、マムシに咬まれたときの症状

僕の場合は20分後に指の腫れと痺れ、溶血、肘までの痛み。1日後に肩までの腫れと痺れ及び痛み、発熱。3日後に中指を覆いつくす巨大な血の塊(真皮と肉の間)。毒をすぐに吸い出して良かった良かった。しかし、もう散々である。すぐに毒を吸い出したのだが、これである。酷い…

6、マムシに咬まれたときの処置

まず、咬傷部より心臓に近いところをできれば、**軽く**縛り、咬み傷から血を吸い出す。(口の中に虫歯や口内炎、傷がある場合は**絶対**してはいけない)そして速やかに病院に行く。もし、**ただのヘビだったとしても**病院に**必ず**行くこと。あと、できれば、そのヘビを持っていったほうがいいが、やたらめったら突いたりするのは**絶対**にやってはいけない。

7、マムシを見つけたら

まず、基本の**3T。**(ンなもんないけど)

T:近づくな　T:突くな　T:タッチするな

これさえ守ればダイジョウブ(か、どうかは、神のみぞ知る)だ!!!あと、マムシは飛びますんで、そこんとこよろしく。これでマムシ研究レポートを終わります。

(ページの都合上、広報委員会で一部削除しています)

「笑顔」

舎営リーダー　森田　次郎

第５回豊中地区キャンポリー（5TC）を開催することが決まり、舎営部門の責任者を仰せつかった時から、カブスカウト、ビーバースカウトの舎営の中で、いかに彼ら彼女らを成長させられるかを考える日々が続きました。前回、大三島で行われた4TCは、カブ部門の指導者として参加し、当時のスカウトたちと熱い３泊４日の舎営を過ごしました。今回はその時の経験と、ボーイ部門での長期キャンプ（スカウトキャンプ）を通じて、スカウトたちが目に見えて成長していく様子を見てきた経験から、私の中ではこの5TCを「一つの行事で終わらせてはいけない」との想いが沸々とこみ上げてきました。豊中地区の「明日へ繋がる」活動を提示すること…ビーバーでしかできないこと、ビーバーだからできること、カブでしかできないこと、カブだからできると…そのことを何度も何度も思い巡らせる日々が続きました。

また、舎営地の滋賀県・希望が丘文化公園／青年の城とも連絡を取り合い、宿泊に関して、各施設の利用に関して、親切な対応とサポートをしていただき感謝しております。また、食事、特に食物アレルギーの対応に関しては、食堂部にはたいへんお世話になり融通をしていただきました。スカウトたちが日々元気に活動できたのも、施設の方々の弛まぬサポートがあったからこそできたことだと考えています。

実際に5TCに参加したカブスカウト、ビーバースカウトはどのようなことを感じてくれたのでしょうか。今回のテーマ…「スカウティングを感じられた」のでしょうか。

今回の5TCを通じて、スカウト運動で言うところの「3つのつとめ」の意味を考えました。

自分へのつとめ
他へのつとめ
神へのつとめ

自分自身を信じられる行いをすること。人を信じられる行動（対応）をすること…ビーバースカウトやカブスカウトには、自分のためにも他人のためにも「一所懸命頑張る」ことを続けることが大切だと思います。私たち指導者は、自分自身の能力を信じられるよう日々研鑽すること、スカウトのことを信じられるよう、しっかりと関わりをもってスカウト一人ひとりの個性を大事に育むこと。その先に、多くの笑顔に会えるのだと思います。

今回の5TC…数え切れないほどの素晴らしい笑顔に会えました。

自隊（団）へ帰られて、もっと大きな笑顔の輪を作ってください。 感謝！

豊中第 7 団 BVS 隊　しま 俊すけ

「キャンプのおもいで」

ぼくはなつやすみにしがけんにとまりにいきました。山にいってまとあてゲームをしてたのしかったです。シャボンだまもしてキャンプファイヤもしてしりもじもしていっぱいたのしかっだてす。大きなおふろはいって石山さんにあたまをふいてくれてうれしかったです。2かいベットでねました。川でふねをつくりました。びわこでおよいでたのしかったです。びわこでみずてっぽうをつくりました。しがけんでごちそうをたべました。キャンプにいってたのしかです。おわり

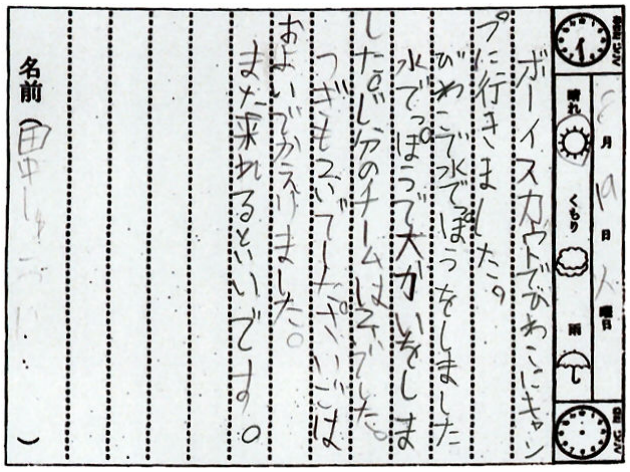
豊中第 7 団 BVS 隊隊長　山城 アキ子

「5TCに参加して」

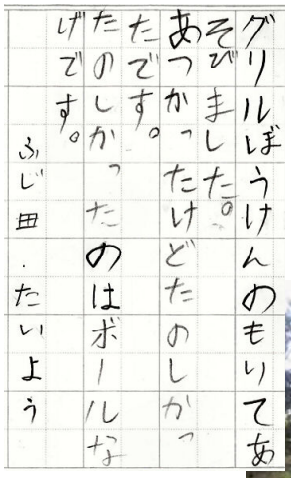
8月13日、不安と期待で豊島公園に集合。盆休みということで高速道路の渋滞を気にしながらバスは予定時間に大会会場に到着。炎暑の中での開会式、ゲームのため汗だくで歩きまわり、日陰のないボーイサイトを見学、楽しみましたが疲れました。バス移動で宿舎へ、二泊三日の舎営プログラムをスケジュール通りに動くことは合同部隊の為、隊員の把握がむづかしく大変でしたが、大勢の子供達と一緒に出来るゲームやソング、集会のあり方等多くのことを学びました。

事前会合で何をやりたいか、何が出来るか、皆で考え各隊長の創意と工夫で楽しいプログラムが出来、子供達が喜んで参加出来楽しんで無事故で帰着出来たことを感謝しております。皆さんありがとうございました。

豊中第 18 団 BVS 隊　田中　しゅうじ



豊中第18団BVS隊　藤田　太陽



豊中第 18 団 BVS 隊隊長　上坂　哲也

“笑顔”にありがとうございました。

怪我もなく、みんな笑顔で終われてよかったと思います。

私自身、今回のキャンポリーは、隊長として初！舎営デビューでした。出発前からいろいろ思いを募らせ、プログラム内容は大丈夫かな？楽しいかな？という不安と期待で当日をむかえました。スカウトの純粋な気持ちと笑顔に接すると、そんな不安はどっかにいき、あっという間に３日間が終わりました。他団のスカウト・保護者の方・リーダーの方と同じ時間を過ごせて、良い経験ができ、いろいろと得ることができました。

スカウトにとっても、多くの笑顔となかまの中で過ごせたことは、思い出に残るものになったと思います。多くの個性豊かなスカウトのなかでそれぞれが成長できたのではないでしょうか。最後の日に「また来たいなー」と言ったスカウトの気持ちに感謝します。楽しい思い出がなかまを増やすきっかけになると思います。やはりスカウトは多いほうがいいですね！

一つ心残りが・・・スカウト１人１人の顔と名前が覚えれませんでした・・残念

次は、スカウトとより多くの対話し、声をかけれるようにしたいと思います。

豊中第 20 団 BVS 隊

ありた りく

8/13～15 まで滋賀県の青年の城でボーイスカウトの夏キャンがありました。道路はこんでたけど、しりとりゲームしたり友達としゃべったりしてたから、すぐつきました。ついてから部屋に行ったら2だんベッドがあって嬉しかったです。上にのったら高くでびっくりしました。

ぼくが1番楽しかったのはびわ湖で泳いだ事です。ペットボトルで作った水てっぽうで的あてもしました。隊長たちに負けて悔しかったです。ポイントハイクで船を作ったりもしました。くものすがいっぱいあって、だれかのリーダーに糸がついててこわかったです。大砲でパチンコした水の入ったビニール袋が顔にあたったけど、冷たくていたくなかったです。

2日目の晩ごはんは好きなものばっかりでおいしかったです。いつもキャベツがありました。最後のカレーライスが少なかったけど、お母さんがご飯だけくれました。自分で洗濯もしました。初めてしたけどむずかしかったです。ふつうのビーバーはめいちゃんとりくとくんでりくとくんは来れなくて残念だったけど、ビッグビーバーは大すけとれんとじゅんやとえいたと皆で行けて嬉しかったです。他の団の友達もできたし、リーダー達もたくさんいて楽しかったです。お母さんもリーダーの服がかっこよかったです。カブスカウトになっても、また5TCに行きたいです。

たにぐち だいすけ

8月13日から15日の2泊3日でスカウトの舎営に参加しました。去年の豊中 20 団の舎営とちがって豊中地区の舎営でたくさんのお兄ちゃん おねえちゃんたちがいたので びっくりしました。あつい中 ぼくたちよりも早く来て テントでお泊りするなんて すごくかっこいいと思いました。 ぼくたちのために ゲームの準備をしてくれてありがとうございます。 もっとたくさんあそびたかったです。 時間がなくてざんねんでした。とくにビー玉をころがしてはがきに絵をかくのがたのしかったです。泊まった青年のしろでは 2段ベッドがたくさんあったのでおどろきました。上のベッドは暑くてよくねむれませんでした。 次の日のポイントハイクでは 紙で手作りボートをつくったり 大きなシャボン玉や大きなパチンコ 小さなパチンコでの的あて 少ししかできなかったけど トランポリンもたのしかったよ。 キャンプファイヤーの前のスタンツの練習では みんなにめいわくかけてごめんなさい。 さいごの日、びわこで水あそびをしました。びわこに入る前 雨がふってきたのであそべないかと心ぱいしました。 でも 雨がやんだので ホッとしました。 みんなおそろいの水色のスイムキャップ うれしかったです。ペットボトルの水てっぽうのまと当てもたのしかったです。 たくさんあそんだので カレーがとってもおいしかった。でも 足りなかったのでおかあさんのカレーをもらいました。 たくさんの思い出と おみやげありがとうございます。 来年はカブの舎営です。ビーバーとちがい どんな舎営になるのか 今からとてもたのしみです。

まるもと じゅんや

5TC のキャンプでいちばんたのしかったのは、山の中にあったローラーすべりだいをすべったことです。1 回だけでなく、もっとすべりたかったです。いろんなゲームをしたり、大きなしゃぼん玉をつくったり、びわこへ行ったのもたのしかったです。キャンプファイヤーでは、スタンツの発表をがんばりました。

たなか えいた

朝、重たい荷物を持ってバスで滋賀県まで行きました。バスは渋滞でなかなか進まなくて、長い間乗っていたので、とても疲れました。宿舎に着いて、ゲームや洗濯、ハイキング、ボート作り、キャンプファイヤーなど、いろんな楽しいことをしました。食事は僕の大好きな餃子がでて、とても嬉しかったです。最後の日は、琵琶湖に行って水遊びができました。特に、おもしろかったのは、隊長とリーダーが作ってくれた水鉄砲で遊んだことです。水鉄砲は、今もお風呂の中で遊んでいます。琵琶湖がとっても汚くて、ビックリしました。疲れたけど、とても楽しかったです。

よしうち　れん

はじめてキャンプに行って、大きなおふろにみんなで入ってあそんだり、びわこでおよいでワカメとかせき（？）をみつけたのがたのしかったです。キャンプファイヤーははじめてで火が大きくてこわかったです。キャンプに行ってみんなとなかよくなれてうれしかったです。

さとう　めい

しがけん　の　びわこにいったよ。びわこで　みずでっぽお　かっせんをしたよ。ありたことみちゃんと　たにぐちことねちゃんと　かけあいっこをしたよ。なかよしの　あいかちゃんは　おやすみでざんねんだったよ。めいは　はじめてのおとまりでどきどきしてたよ。でもぱぱが　いっしょでよかったよ。しゃぼんだまも　いままでみたこともない　でっかいしゃぼんだまで　びっくりしたよ。はりがねみたいなまるいのを　したのばけつにつけて　いっきにあたままで。それだけでおおきいのができたよ。はじめてのおとまりだったけど　たのしかったよ。

ますだ　たいちょう

活動計画の詳細がギリギリまで確定しなかったのにも関わらず、各隊隊長、リーダー、保護者および担当副コミの協力により、大きな事故、怪我、病気もなく無事終えることが出来て、まずはホッとしております。「普段出来ないことをやる」という当初の目的も十分達成でき、大成功だったと思います。欲を言えば、参加団がもう少し多ければ、豊中地区の行事としての体裁が整ったのではないかと思います。

豊中第 22 団BVS隊

井上　仁

びわこでの水あそびがたのしかった。みたことのない虫をみつけてうれしかった。

森山　倖多

2だんベッドでねたり、子どもたちでおふろにはいったのがたのしかった。ごはんもおいしかった。

安達　柚香

とまってたのしかったです。せんたくがたのしかったです。ベッドがきもちよかったです。キャンプファイヤーのスタンツのとき火があつかったです。キャンプファイヤーがきれいだったです。かばんの中にろうそくを入れたやつがすごくキレイだったです。かいだんのぼるのがだいへんだった。おふろがきもちよかった。シャワーがこわれていたのがざんねんだった。キャンポリー大しゅうかいはすっごくすっごくあつかったけど、たくさんの物であそべて一ばんさいこうにたのしかったです。

山崎　晃

すべてたのしかったです。その中で1ばんたのしかったのはびわこであそんだこと。2ばんめはどんぐりの森のたんけんがたのしかった。3ばんめはバスの中でのしりとり。ごはんもすごくおいしかった。本当にたのしかったです。

池田佳乃

キャンプファイヤーがたのしかった。

豊中第22団BVS隊隊長　太田 雅子

「5TCの思い出」

『そなえよつねに』という言葉がいつも耳に痛い私。大切な資料を忘れ自宅へ舞い戻ったせいで、バスの出発を少し遅らせてしまい、情けない思いでスタートしたキャンポリーでした。

渋滞でようやく到着したグリムの森ではボーイ・ベンチャー部門の皆さんが暖かく迎えて下さり、いよいよキャンポリーのスタート！

日陰のない暑さは想像以上で、ビーバースカウトや更に小さな子供達の体調が気がかりでしたが、それでも各ポイントは元気に回っていたので、子供は本当に元気です。(大人は最初からぐったり？？？)

青年の城に舞台を移し、ベッドのある部屋ではしゃいだり、お風呂や食事を共にしたりして、徐々に他の隊のスカウトともなじんでいた様子でした。

1泊目夜の室内ゲーム、2日目の森の探検、キャンプファイヤー、3日目の琵琶湖での水遊びと、大きなプログラムのひとつひとつにスカウトを笑顔にさせたいという思いが詰まっていたと思います。

ビーバー部門は参加者が少なく、うちの隊も出席率は50%にとどまりました。参加隊も少なかったので、ラウンドテーブルで5TCの話し合いがほとんど出来なかったのが残念でした。

あと、下見をしていなかったグリムの森での暑さ対策をもう少し強化しておけば良かったと思いました。

良かったのは2泊3日を通して楽しそうに過ごしているスカウトの姿をみることができたこと。そして、各隊の交流がより深まったことです。

森田副コミにはたくさんのご指導やご提案を頂きました。手作りの記念品はラッピングにも工夫があり、とても参

考になりました。

5TCに関わったすべての皆様に心より感謝いたします。

5TCを終えて

CS部門舎営長　澤　恭子

地区キャンポリーには　3TC、4TCと指導者として参加し、楽しかった思い出だけ残っていましたが今回はCS部門の舎営長という大役を受け今までとは違った形でキャンポリーに参加しました。

部門で一つのプログラムを計画するにあたっても各隊長の様々な考え方、方法がありなかなか同じ方向に向けることが出来ずに人を纏める事の難しさを痛感いたしました。

しかし、5TCを終えて振り返ってみれば、日々の朝礼から合同プログラムと全てラウンド中心でただ参加するだけのキャンポリーではなかったと思います。ただ、プログラムの詰めや運営にあたっては考えるべきことが多く今後の課題を残したと思います。

何はともあれ、子どもたちが猛暑の中体調を崩す事もなく元気いっぱい参加してくれたことが何より嬉しく思いました。このキャンポリーに参加して子どもたちが何か一つでも心に思い出を残してくれたら更に嬉しく思います。

今回の5TCに関わって頂いた全ての方々に心から感謝の気持ちで一杯です。 弥栄！

豊中第１団CS隊　１組　萩原　翼

「土影参上！」

ぼくは、第五回豊中地区キャンポリーに参加して一番楽しかったのは、忍界大戦です。

ぼくたちは、土族の土影にえらばれました。うれしかったし、びっくりしました。なぜなら、土の国と風の国は順調だったのに風の国から火の国の間で道にまよってしまったからです。

そして、対戦の初めの相手は火族。旗が落ちたのはほぼ同時でどきどきしましたが旗の残りの面積が大きかったので勝ちました。うれしかったです。2ゲーム目は、風族と対戦。すぐ負けてしまいました。とても風はつよかったです。負けてくやしかったです。

そのあと、7団のデンリーダーが大将はまん中であまり動かないほうがいいと教えてくれました。そして、ぼくはカブ隊の最後のキャンプなので、どうしてもこうげきがしたいと思って、3ゲーム目は大将を次長と交代してもらいました。

そして3ゲーム目は水族と対戦。あっと言う間に、相手の旗が落ちてしまってあまりうてませんでした。でも勝ててうれしかったです。結果はぼくたち土族は、二勝一敗で準ゆうしょうでした。ゆうしょうは風族で全勝をしていました。すごく強いな～とぼくは感心しました。

ぼくは、最後のカブ隊キャンプ、本当に楽しかったです。ほかの団とも、仲よくできて友達もできてすごくよかったです。また、その友達とどこかで会えたらいいな～と思っています。

豊中第１団CS隊隊長　小中　啓生

「チャレンジと友情の4日間」

5TCの4日間を通し、改めてスカウト達のチャレンジ精神と活発さに驚かされました。特に印象に残ったのは、2日目のアスレチックと、3日目の地区合同プログラムです。

アスレチックには年齢別に通るコーナーが決まっており、一度下見した時も「これを全部クリアするのは無理だろう」と思っていました。しかし、スカウト達は気にせず次々とコーナーにチャレンジしていきました。高く危険な場所は大人がカバーしながらも次々と進み、ほぼ全てのコーナーを回ることができました。午後からは15団・17団のスカウト達と一緒に川遊び。川の水位は膝下程しかなかったのですが、スカウトの一人がちょうど肩まで浸かれる位の場所を見つけ、そこで楽しく遊ぶ事ができました。

3日目、大雨に見舞われ、道に迷いながらもゲームを進めた結果、何と1組が土影に選ばれました。組長達がプレッシャーを感じていないか心配しましたが、プレッシャーどころか、土族のスカウト達と一緒に作戦を話し合い、積極的に土影としての役割を果たしており、驚くとともに、少し安心しました。

5TCを通じて、数々の新しい事にチャレンジし、多くのスカウトと交流する事ができました。ここでの経験と思い出は、彼らの今後の活動の支えになってくれると思います。

豊中第２団CS隊　１組くま　吉金 あす香

「カブ最後のキャンプ」

私は、8月 13 日から 16 日まで5TC のキャンプに行きました。今回のキャンプは2団と他の団との合同キャンプでした。最初は、知らない人がたくさんいたので少し不安でした。宿泊先は、滋賀県にある「青年の城」で、私の部屋は 20 人部屋でした。

１日目の夜には、星空観察と肝だめしをしました。私は最初、肝だめしはこわくないと思っていましたが、順番が近づくたびにきんちょうしていました。私の番になって歩き始めると、暗いトンネルがあり通っていくとリーダーにかたをつかまれてとってもびっくりしました。トンネルをぬけると他のリーダーがうなりながら出てきてまたまたびっくりしました。

２日目は、日本一大きい湖のびわ湖で泳ぎました。びわ湖には島があると聞いていたので確認するとうすく山らしきものが見えました。そこには人が実際に住んでいるようです。体操をして泳いでいると、貝がたくさんあったのでみんなが拾っていました。私もいっしょに拾っていると、7センチメートルほどの貝を見つけて拾いましたが、持っていると貝で手を切ったので逃がしました。

次に、アートコンテストをしました。バディといっしょに、「スカウト」から連想したものを砂で作りました。「スカウト」「くま」「プーさん」「ディズニー」「シンデレラ城」ということでお城を作りました。結果は私のチームが1位でした。とても意外でびっくりしました。

３日目は、忍者になってゲームをしたり料理をしました。その日は、天気が悪く地面もゆるく土の上をあるくのが大変でした。場所移動は自分達で道を決めて歩いたので時々間違え、もどるだけでも汗をかきました。ゲームでは私のチームは点数がとても低かったです。でもいつもおしいところで負けるところが多くてくやしかったです。

お昼におやつとして「ほうとう」を作りました。熱かったけどとてもおいしかったです。

山を登ったり川の上にある石を渡ってようやくゴールし、何番目にゴールしたか後で聞くと3番目だったのでとてもうれしくて、みんなでハイタッチしました。

その後ペットボトルで作った水てっぽうで半紙の旗をやぶる競争で、うちのチームは3回戦中全部勝って優勝しました。その時はびしょぬれで気持ち悪かったけどすごくうれしかったです。

その日の入浴はいつもより気持ち良かったです。

最終日は思い出に残った場面をスケッチしました。私を含むほぼ全員が肝だめしのトンネルで、３人くらいは夜空を書きました。発表すると私の絵をみんながほめてくれてうれしかったです。

今回のキャンプでは他の団と合同で最初は少し気まずかったけど、だんだんなれて3日目からはみんなも楽しくできたし、色々な経験ができてカブ最後のキャンプとしていい思い出になりました。

5TC大集会でカブ部門を代表し、カブサインをする吉金あすか

水鉄砲合戦には、忍者をイメージしたTシャツを着て参戦

豊中第２団CS隊隊長　中西　毅

「育ち実感、5TC」

３泊４日の家を離れた共同生活。スカウトたちは目に見えて成長します。特に年少のうさぎちゃんたちは、成長の度合いが大きいようです。少し我が強い和沙ちゃんも、「みんながいいなら、それでいいよ」と組の意見をまとめるようになり、今まで以上に協調性が出てきました。持ち前の明るさが、ますます発揮できそうです。ちょっぴり控えめの乃々香ちゃんも「勝手なことしてたら、先に進まれへんよ」などと友だちをたしなめる場面が後になるほど多くなりました。元々、芯のしっかりした子だけに今後が楽しみです。一番びっくりしたのは杏ちゃん。初日の肝試しのことです。最初は他のスカウトたちと同じように「こわい」と言っていたのに、くまの先輩たちも含めだれも行かないと見ると、「行ってみる」と一人でスタスタと歩き出しました。これだけでも驚きでしたが、その後の変化が予想以上でした。これまで、どちらかというとはにかみ屋さんで組の中ではおとなしいスカウトでしたが、肝試しの一件で自信を付けて発言も多くなり、しばしば組をリードするところを目にしました。

もちろん、しかやくまのスカウトたちも色々な面で成長して帰っていきました。それぞれのご家庭でも実感されていると思います。ただ、うさぎちゃんたちは親元を離れ、初めてスカウトたちだけで過ごす４日間。やはり影響（効果）は一番大きいように思います。今回、5TCに参加できなかったスカウトたちにも、また別にこうした機会を作れたら良いな、と考えています。

この5TCのため、団や地区のさまざまな方々や保護者の皆さんから支援をいただきました。地区プログラム「忍者修行」の火の国では山中隊長はじめ4団の皆さんにバックアップしていただき、スカウトたちに事故なく楽しませることができました。琵琶湖での水泳・環境観察プログラムには、大田副団委員長に前夜遅くに駆けつけていただいたうえ、朝早くから先乗りしていただきました。ほかにも多くの方々の献身的な援助をいただき、本当にありがたいことだと思っております。

私自身、子どもたちの成長する場面に立ち会える喜びを与えていただき、感謝しております。それに加え、地区プログラムの1コーナーを任されたり、バス1台の責任者をおおせつかったり、挙句に閉会式の歌の指揮を直前になって指名されたりと色々な経験をさせていただきました。うさぎちゃんと同じように、新米隊長も成長できたでしょうか？

２日目、２団は琵琶湖で水泳を楽しんだ

豊中第 4 団CS隊　4 組くま　井上　祐希

『-じゅうじつした4日間-5TCに行って』

8 月 13 日。とうとう5TCの日がやってきました。カブ隊になって、初めての 3 泊だったのでとっても楽しみで、この日がまちどおしかったです！！

ボーイのキャンプしている所の大集会では他の団と歌ったり、組でスタンプラリーをしたり、1 日目から楽しいイベントがもりだくさんでした。ボーイは、7 日もキャンプをして、それもずーっとテントだからすごいと思いました。

ぼくは、宿で初めて 2 だんベッドでねたので、おちないか心配でした。自分はおちなかったけどねている間、何度も水とうがおち何度もデンリーダーがひろってくれていたそうです。これを聞いて申しわけない気持ちになりました。

さて、とうとう合戦の時。ぼくたち火のぞくは「ぜったいゆう勝しよう！！」とみんなが一つになって戦ったけど、結果は『**全敗**！！』ぼくは、全敗をそししようとした 3 戦目で大しょうになったけど負けてしまい、火のぞくのみんながかわいそうでした。

そしてその夜の「**キャンプファイヤー**」。火のぞくのスタンツは、4 団のゲームが採用されました。ぼくの組は賞を取ったことが無かったので、これほどのめいよは無いと思いました。この日のキャンプファイヤーはいつもとちがって人数も多く、とてもにぎやかなキャンプファイヤーでした。

この 4 日間は組や、隊などの集団行動の大切さなどを学び、めったにできない経験をたくさんしました。5TCで学んだこと、経験したことは「**ぜったい**」わすれないと思います。

豊中第 4 団CS隊隊長　山中　拓馬

「5TCに参加して」

自分自身はスカウトの時に第3回大江山の回、ボーイ隊リーダーとして第 4 回大三島の回を経験した。過去参加した内容はどちらも新鮮でこの第 5 回大会はどんなことが出来るのだろうかと期待が高まった。

出発前はそれまでの打ち合わせでうまく調整出来ていない部分もあり不安もあったが、5TC初日にボーイ隊部門のサイトへお邪魔した時、暑い中でもボーイ隊のスカウトもカブ隊のスカウトもみんな楽しそうで、その姿を見て5TCが無事行われていることを実感し安心した。

全体プログラム中は陣中食ポイントを担当し自隊のスカウトをポイントで見るしかなかったが、組ごとにまとまって活動出来ている様でうれしく思えた。どのスカウトも暑い中でも一生懸命料理を作っていた顔はカッコよかった。

5TCにスカウトも楽しく取り組んでくれて良かったと感じているが、せっかく他の団と活動場所が同じだったので次回大会はもう少し他隊との交流出来る時間を多く作れれば･･･と思う。

大きな事故や病気もなく参加者全員で最後まで無事過ごせたこと、自隊の指導者他協力者また大会運営に携わられた方々ありがとうございました。

豊中第5団CS隊1組　池田達也

「神風が吹いた」

8月13日～8月16日に豊中市のカブスカウト全員で滋賀の希望が丘に行きました

キャンプファイヤーをしたり、日本一広い琵琶湖に行って泳いだりしました。

一番おもしろかったのは「第5次忍界大戦」と言うみんなが4つの族に分かれて水を掛け合う戦いでした。

それはペットボトルの水てっぽうで相手の大将が着けている族の旗を破り落とせば勝ちと言うルールです。

ぼくたち5団のチームは風族で弱そうだと思っていたけれど不思議なことに神風がふいて3連勝し優勝出来ました。

今回のキャンプは他の団の人と友達になったりいろいろな思い出が出来て良かったです。

豊中第5団CS隊隊長　齋藤照光

「第5回豊中地区キャンポリーに参加して」

8月13日豊島公園を出発しグリムの森での大集会への参加、とボーイ隊に依る歓迎ゲーム大会、その後希望が丘青年の城へ移動し入所式、忍界大戦の族別での準備集会、14日彦根琵琶湖松原湖畔での浜遊び、そして15日CS隊合同プログラム忍界大戦、キャンプファイヤー、16日記念品造り、閉所式と3泊4日色々のプログラムを消化しましたが4日間を通じてスカウトたちが毎日快活に楽しんでいるのを感じました。

個別プログラムでは琵琶湖の浜辺ではボール遊び、貝探し、スイカ割りと心行くまで水遊びをし、翌15日の合同プログラムでは他団のスカウト達と一緒になり自分達の族の為に合戦相手の頭の旗を落とす事を目標に心を一つにして一生懸命戦っている姿は感動しました。

普段自隊では慣れと甘えの為か、だらだらと活動しているスカウト達がプログラムへの興味は勿論ですが他団のスカウト達が在る事でのいい意味での緊張感を持って行動していた結果だと思います。

そして今回の5TCを通して仲間を思いやる心と、組織の一員としての協調心を少しは育めたかなと思います。

最後に希望が丘青年の城での活動にあたってスタッフの皆様におかれましては計画、準備と開催日までご苦労をお掛けし、開催に当たっては運営面でもご苦労をお掛けしました、おかげさまでスカウト達も大変喜んでいました、お疲れさまでした、ありがとうございました。

豊中第６団CS隊1組　森　晴太

「　思い出に残った5TC　」

今回で、5回目となった豊中地区キャンポリーに僕は参加しました。僕は初めてだったので、このキャンポリーに行く前はとてもわくわくしていて、すごく興奮していました。前日まで忙しく、何も準備をしていなかったので、あわてて荷物の用意をしました。荷物は最小限にしたつもりでしたが、リュックがパンパンで重たくて、集合時間までいくのにとても苦労しましたが、何とか集合場所につき、バスに乗ることが出来ました。乗ったバスが思ったより快適で、到着まで出口君にロープの結び方を教えてもらったり、みんなで話をしたりしました。

いよいよ青年の城に着き、スカウト活動が始まり、すぐに、開会式や部屋割りが行われ、8団と同じ部屋になりました。みんなで入るお風呂は楽しかったです。そして夕食がとても美味しかったです。そのあと、今回のキャンポリーで一番大事な、『われらナルトのカブ忍者』や族のファイヤーの話し合いをして、21:30就寝しました。

2日目の忍者村体験では、昔に忍者が使っていたしかけや道具や工夫などが勉強でき、実際に忍者がやっていた事も体験できたので面白かったです。ザリガニ釣りは初めてでしたが、6匹位釣れたのでよかったです。

3日目には、『われらナルトのカブ忍者』をして、国から他の国へと移動したり、たくさんのアトラクションを合格してなんとかゴールにたどりつきました。難しくて時間がかかった分、ゴールの時はうれしかったです。みんなで協力して作ったホウトウは、とても美味しかったです。夜には、キャンプファイヤーがありました。原隊長が盛り上げてくれて、色々なゲームをして楽しかったし、初めてやったゲームも面白かったです。

最後の4日目は、7団と一緒に活動をしました。虫をつかまえたりして遊んだり、記念品を作りました。そして、昼食のそばがとても美味しかったです。

今回のキャンポリーは、色々な体験ができて面白かったです。又、今回みたいな体験を何度もしたいなあと思います。これからも、仲間を沢山増やして楽しい活動をして行きたいです。

豊中第　6団CS隊隊長　原　眞仁

「　5TCを振り返って　」

５TCの参加にあたって、地区スタッフの安全管理部として大会を協力しCS部門のサポートと自団のスカウト達とDLと楽しむ事を思いながら、会議と準備から参加させて頂きました。大会初日から照りつける日差しが強く、キャンプサイトの地割りを行うだけで日焼けをしてしまいそうで、熱中症には十分注意が必要と感じました。大会初日は、グリム冒険の森で安全管理部として関わらさせて頂きましたが、初日終了間際に、当団（６団）のBS隊長が軽い熱中症に掛かり残りの日々、参加者の安全と健康がやや気になりました。仕事で大会を途中で帰宅せざるを得ない事態が発生してしまう事について非常に反省しています。不参加の11日・12日でも参加者の安全面を気にしていました。

13日からCS部門で青年の城に入り安全面をに気配りながら、スカウトとリーダーで集合時に話し合いながら参加しました。スカウト達は好奇心と緊張感を持って初日を迎えましたが、入浴と夕食でスカウトから笑みが出だし、明日からの活動が楽しんでいけると感じ、夕食後の族集会からスカウト達の団結が少し築けたのではと感じました。

2日目は、会場から離れ、甲賀忍者村とみなくち子供の森自然館の体験活動でスカウト達がのびのび愉しんでいる姿から自然と仲間意識が出だし、私とリーダーは、『この経験は喜ばしい事で大事ですね』と互いに話しました。3日目の族同士の合戦では、組での活動を競い合い更に部門全体が盛り上がり、私もスカウト達と一緒になって盛り上がり愉しまさせて頂きました。大会から感じたことは、自団の少人数の隊活動を行うより他団と交流を通じて（2・3組以上）の活動が、スカウト達の向上心や楽しみ方が増加すると思い、これからも大いに取り入れるべきだと思いました。

CS部門の大会4日間は、地区のスタッフ、指導者の方々、施設の方のご協力で無事成功した事を非常に感謝しています。

豊中第8団CS隊　森本 雄策森

「こわ～いハイキング」

8月13日から16日まで5TCがありました。

そこで一番楽しかったのは（怖かったのは）山登りでした。

その山は見るからに崖っぷちで、岩だらけで急な坂だらけで、すごいところでした。そして何よりもすごかったのはー！クモの巣でした。全員の大会キャップが、青年の城へ帰ったらクモの巣だらけでした。ぼくは1、2回、クモの巣が顔に当たりました。

また、山登りを始めてわずか2、3分たったころ、うしろから「ワーッ」という声が聞こえてきました。それは16団のスカウトからでした。「なんだ？」と事情を聞いたら、一人が落ちそうになって、それを見ていたもう一人が、そのスカウトを助けたと言うのです。ぼくはそれを聞いて、「すごいなぁ」と思いました。

しばらくしていい景色のところがあり、みんなが感動しました。その後やっと頂上に着いてお弁当を食べて、また歩きました。途中で迷ったけど、やっと出口まで着きました。

ぼくはもうあんな山には登らんとこうと決心しました。

豊中第8団CS隊副長　小畑　敬二郎

「5TC所感」

まず始めに、それぞれの担当になられた方々、本当にお疲れ様でした。

私にとっては初めてのキャンポリーで、興味と不安を抱きながらの参加でした。

まず、ご当地に因んだキーワード「忍者」をテーマとして各プログラムを組み立てたことが、スカウトの興味と気力をより一層引き出せたと強く思います。

それに、各コーナーの内容がバランス良く配分され、スカウトは飽きることなく修行を進めることが出来ました。その修行の成果を結集して戦う水の国「第5次忍界大戦」は標的がはっきりしており、思い切り力を出せる戦いだったのでしょう。スカウトが真剣で必死に戦う姿がくっきりと目に浮かびます。。

また、定番のキャンプファイヤーについては、ユニークで進行が面白いとのスカウトの評価も高く、最も楽しかった事の一つに入っております。

炎天下での丸一日のスケジュールでは、給水場所（水道）を地図に表示するとかのもう少し細かい配慮が必要かと思う部分もありましたし、予測時間のずれや入浴・食事の時間的やりくりとかの多少の反省点は挙げられますが、全体を総合的に見るならば、スカウトにとっては間違いなく印象深く思い出に残る体験になったはずですし、すばらしいキャンポリーだったと心から拍手を送りたいと思います。

豊中第 14 団CS隊 1 組　光汰

「第五次忍界大戦」

3泊4日の中で、一番楽しかったのは、水の国の第五次忍界大戦～霧吹きの術～です。やり方は、頭にポイをつけ、ペットボトル水鉄砲で、相手のポイを破ります。又は、火族、水族、風族、土族のいずれかの文字が描いてある旗を破り落とします。火族、水族、風族(14 団 1 組所属)、土族(14 団2組所属)とが戦いました。　一回戦は、水族 VS 風族でした。先に相手チームの旗を破り落としたチームの勝ちです。ぼくはただ逃げ続けて、ちょびっとだけ攻撃してたら、いつの間にか勝っていました。次の試合は、ライバル(2組)との戦い、土族VS風族でした。2組には負けたくない！という気持ちで旗を集中攻撃してたら、見事に勝ちました。そして最終戦、火族　VS　風族です。3連勝したい！と思い、全力でやりました。そしたら、すごくギッリギリで勝ちました。　これで3連勝(全勝)の風族の組長達が、表彰されました。疲れたけど、すごく楽しかったです。また行きたいです。

豊中第 14 団CS隊隊長　妹尾　孝樹

「感謝」

今回のキャンポリーでは、7団BVS隊山城隊長と6団CS隊原隊長に、大変お世話になりました。ありがとうございました。

それは大会3日目の朝のことでした。1人のスカウトの喉が腫れ、食事も通らないとのこと。この日で帰られる山城隊長にお願いして診察していただき、とりあえずヒエピタで治まるか(虫刺されの可能性)熱が出るか(おたふくかぜ等の疑い有り)、様子を診てくださいとのこと。次に原隊長にヒエピタをいただいたおりに、今度は原隊長が診察してくださり、噛み合わせの悪さからくる腫れではないかとの診断。痛み止めがあれば服用させてくださいとのことなので、保護者の了解を得て、副長持参のロキソニンを半錠飲ませました。薬の効果か腫れも引き、その後も食事ごとに原隊長に診ていただき、何とか最終日まで一緒に活動できました。帰阪後の診断では唾液腺炎とのことでした。

お二人のプロフェッショナルな対応のおかげで、不安そうだったスカウトに笑顔が見られ、さすがだなと感心しました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

中第 15 団CS隊　VS副長　川村　健太

今回、スカウト時代以来約 30 年ぶりにカブ舎営に参加致しました。8 月 13 日朝に 7 名（うちリーダー3名）とう小所帯で集合し、千里中央から地区のバスで帰省ラッシュの渋滞に巻き込まれつつも、何とか「グリムの森」での全体プログラムには間に合いました。ここで式典とゲームに参加後、「滋賀県希望ヶ丘文化公園」内の研修施設「青年の城」に移動し、地区カブ隊としての活動が始まりました。

その晩から 17 団 12 名（うちリーダー2 名）と相部屋になったのですが、個性的なスカウトを抑えて寝かしつけるのは専ら両隊の隊長の仕事で、なかなか難しいものだと実感いたしました。また、今回の参加スカウトとは初めてのキャンプでしたが、2 日目のフィールドアスレチック辺りで、各人の個性も見えてきました。又昼からは植原副長が応援に来てくださり、地区のお役目でしばしば召集される宮崎隊長・元山副長が不在の折などよく助けていただきました。

今回カブのテーマは「忍者になって自然にとけこもう！」ということで、各隊が火水風土の「族」に分かれて競い合うことになっておりました。15 日は希望ヶ丘公園内をハイキングしながら、各「族」のコーナーを回って炊事、ゲームなどのプログラムで得点を競い合い、最高点の組を「族長」として、ゴールである青年の城近くに設けた「合戦場」で水鉄砲合戦をするというものでした。なお 17 団とは同じ「水の族」だったのですが、その時使った「族」の旗の作成に手を挙げたのはこちらのスカウトだったのに、結局ほとんど「サポート」で入ったあちらのスカウトに頼ってしまったのは反省点でした。それ以外については、しか・うさぎ各 2 名としては健闘したと思います。特にその夜の大営火で頑張っていたのが印象的でした。

16 日は朝、記念のアクセサリー作り・1 団のスカウトと野球のあと、昼食後閉会式をして、帰りは渋滞もなく 1 時間ほどで帰って来ました。全日程を通じての感想としては、もっと自発性を伸ばしてあげたい、他の団も含めていささか食が細い（あちらの給食が完食できない）のが気になったということです。

最後に、今回お世話になった当団・17 団と各団のリーダー、施設スタッフの方々、そして暑い中頑張ってくれたスカウトのみんなに感謝致します。ありがとうございました。（了）

豊中第 15 団CS隊副長　植原　隆

今回の5TCは私自身にとって、3回目のキャンポリーとなります。しかし仕事の都合で、残念ながら二日目から参加して三日目の夜までという中途半端な短いキャンポリーとなりました。各団リーダーの皆さんは何かしら役割を担って、プログラムの進行に関わっていましたが、私は正式参加でもなく、自団の付き添い兼見学者として、義務も責任もない立場で二日間をキャンポリー会場で過ごしました。その二日間で感じたことを簡単に報告致します。

私にとっての一日目は1団、17団と合同での午後からの川遊びでした。5月に下見では水の流れも十分で、暑さをしのぐ楽しい水遊びができそうに思えたのですが、水量が乏しく水の中から子供たちの歓声が聞こえるほどではありませんでした。その夜は4つに分かれた忍者の族がそれぞれ集まって、次の日の夜行われるキャンプファイヤーの出し物についてのミーティング。15団は水族でしたが、スカウト主体に歌とスタンツを組み合わせた面白い内容のものが出来上がりました。

次の日は朝から合同プログラム。4つの族の陣地を巡って忍者修行のゲームに挑戦です。雨に降られたりしましたが、忍者に因んだ趣向を凝らしたゲームでスカウトも楽しんでいました。メインイベントは最後のペットボトル水鉄砲での合戦。これはリーダー、スカウト一丸となって夢中で楽しめたと思います。

夜はキャンポリーを締めくくる合同キャンプファイヤー。各族のスタンツ、歌、その間を埋めるリーダーのゲーム、大人数だけに進行は大変だったと思います。

キャンプファイヤーを見届けて私はキャンプ地を後にしました。猛暑と寝不足の中、リーダーの表情にはさすがに疲労の色が見えましたが、スカウトはみんな元気でした。

豊中第 16団CS隊　中内　虎太郎

8月13日～16日、3泊4日でキャンプに行きました。行く前は、楽しみはもちろんあったけど不安の方が大きかったです。なぜなら、ぼくは早起きが苦手だからです。もう1つは組長だからです。

2日目は登山でした。歩き始めて、すぐに友達が遅れだしたので、ゆっくり行く事にしました。これからが本番です。（いよいよだなぁ）登り始めると、山にはクモの巣がいっぱいあり、隊長と8団の隊長がクモの巣をとりながら歩いてくれました。途中、何度か休憩をして、やっと頂上に着きました。頂上は景色も見れないし、何もなかったけど、そこで食べたお弁当はめちゃくちゃおいしかったです。

下りは下りで、大変で何度か滑りそうになりました。ぼくは3番目だったけど途中で間があいて、はぐれそうになりました。「青年の城」に着いたらリーダーがジュースを買ってくれて飲みました。登山の後のジュースも、かなりおいしかったです。その日の夜はぐっすり眠れました。

3日目の夜はキャンプファイヤーでゲームをしたり歌を歌いました。

いろいろな経験をし、心配していた早起きもでき、本当に楽しい3泊4日でした。組長で、みんなが人の話を聞いてくれなかったりもしたけど、それはそれでいい経験になりました。いつもは自分の団だけのキャンプだけど、今回みたいに、たくさんの団と活動ができ、とても良かったです。あと何日か、みんなと一緒にいたかったなぁ。

豊中第 16団CS隊隊長　久保　雄亮

滋賀県立希望が丘文化公園「青年の城」での3泊4日の長期キャンプ、総勢150名近くの大人数でのキャンプは、僕自身もいい経験を体験でき、とても勉強になりました。

スカウトたちもビーバー隊から続けている子、カブ隊からの中途入隊者と半々くらいの割合での構成。その中でもビーバー隊からの経験の子たちは、やはりキャンプ慣れしていて動きがスムーズで次の活動の準備、次の行動への動きが予測でき、経験の差を垣間見ることができました。14コ団もの団数の中、スカウトたち自身も他の団のスカウトたちの中で、良い刺激を受けたのではないかと思いました。特に組長の成長には目をみはりました。

2日目の団のプログラムでは、毎年恒例の長距離ハイク。毎度の事ながら叱咤激励の繰り返しの末、全スカウトが完歩達成！時間も予定通り！みんな、よく歩いてくれました。今回はあまり、いいハイキングコースではなかったですが山林の恐さも体験でき、良かったのではないかと思いました。地図とコンパスの使い方も、少しづつでも教えていこうかなと、新たな発見もし、次の活動へのステップアップ的なことも考えつつの2日目でした。

3日目の活動での各コーナーの企画、展開ともに良く、今後の活動にも取り入れられる内容等、多々あり、生かしていこうと思いました。キャンプファイヤーも演出構成がしっかりできてあり、とても良い内容で勉強になりました。

スカウトたちにとっても今回のキャンプはいい経験になったと思います。3泊4日で大きな怪我もなく、大きく体調を崩すスカウトもなく活動が行えたことは5TCキャンポリーの大成功なことであり、各団の隊長及びリーダーの方々、ありがとうございました。

16団のスカウトたちも、この経験を生かし普段の活動に対して、もっと前向きに！積極的に！取り組み、もっと活動を楽しく！勉強・成長していきましょう。

豊中第 18 団CS隊2組　前田　みなみ

「いろいろな体験をしたキャンポリー」

１日目の朝の朝礼、私は他の団の男の子と国きけいようをしました。朝みんなより先に行き練習しました。リーダーがやりかたをせつめいしてくれました。

私は何回かした事があるので分かっていたけど男の子は初めてだったそうです。 朝礼の時間がせまってきました。 ドキドキが止まりませんでした。 リーダーが、『あげる時、曲が流れると思うからそれに合わせてあげたらいいよ。』といわれました。 合わせれるかなあという不安がでてきました。

いよいよ本番です。練習よりドキドキが高まってきました。国きけいようは朝礼の最初です。みんなが集まり、朝礼が始まりました。 すぐに『国きけいよう、代表スカウト』と言われました。 はしっこから上にあがりポールの前に二人で走ります。 私がロープをほどき男の子にわたし、二人で広がります。 手をあげました。『あげっ！』と言われロープを引っぱります。 国きが上にあがっていきました。 音楽は流れませんでした。だから合わせられるかなという不安はどこかにふきとんでしまいました。

のぼりきりロープをもらいむすびます。 この時、ゆるまないか心配だったけれどうまくいきました。

始めておおぜいの前で国きけいようをしたので、とてもいいけいけんができたと思います。 今度やる時は、キャンポリーでやった時よりもうまくやりたいです。

豊中第18団CS隊隊長　小橋　哲也

「キャンポリーを振り返って」

3泊4日スカウト達はこの期間どんなことを学びとったのだろうか･･･。 帰宅後、落着き考えてみました。

ソング、国旗儀礼、普段少人数の中で何気なく容だけこなしていたように感じてましたが、成長していたんだと思い返されました。

組という小さな社会の中で、役割りを決め協力し合いこなしていくおぼろげながらも成長しているんだ、まさに『今回がその発表の舞台だったんだ。』と自ずと感じました。

大勢の中で自然に責任を感じたり、まとめ上げていく姿、それの積み重ねが、ボーイからベンチャーゆくは社会人になっても役立っていくのだろうと････。

この子達の次の舞台は「23WSJ」しかも日本で開催。このチャンスが与えられた年齢ですからぜひ生かして欲しいと思います。

最後に、他団のリーダーの皆様方このたびはいろいろとお世話になりました。 今後もスカウティング活動に共に貢献していきましょう。

弥栄

豊中第 20 団CS隊　3 組　佐藤 小夏

「5TCを終えて」

2011年8月13日～16日まで、豊中地区キャンポリーがありました。

その中で一番心に残ったのは、水の合戦です。一回戦では、私たちの描いた旗が使われました。でも描いてる時にみんな走り回っていたので、ふんづけてやぶれてしまっていました。なので、すぐやぶれて、負けてしまいました。二回戦は、相手は忘れたけれど勝ちました。作戦は一回戦では最初の二分は守り、残りの一分で攻めました。でも負けたので、次は一気に攻めるという作戦でいきました。すると、勝ったのでうれしかったです！三回戦は負けてしまいました。相手がすっごく強くて一しゅんで終わりました。少し残念な戦いだったけど、一回勝ててうれしかったです。

二番目に心に残ったのが忍者村です。一番楽しかったのはつなわたりでした。私は、アスレチック的なものが好きなので、うれしかったです。水グモも楽しかったけど、ぬれたのが残念でした。くやしかったです。大人で一時間ぐらいかかる所を45分で終わったので、びっくりしました。でも、お昼ごはんはまとまってなかったので残念でした。

三番目に心に残ったのは、部屋の中です。今回のキャンプは私の怒りがばくはつしました。だれか一人にどなると、みんながシーンと静まりかえり、よくいやな空気が部屋中に流れていやだったです。私がどなってみんながかたまったのは、〇〇〇〇がけがしてる時に、〇〇〇と〇〇〇がけんかするから、「オメェら今けんかするときちゃうやろが！」とどなると、みんながかたまりました。今では、自分でも「こわかったなー」と思います。

ボーイスカウトの活動で一番楽しいキャンプでした。クマ最後のキャンプが楽しいキャンプで良かったです。

豊中第22 団CS隊　2 組　安達　音香

「5TC」

わたしは、5TCに行って、とてもよかったと思います。

いろんなごはんを食べれたり、ちょっとあつめのお風呂に入れたり、色んな団の人に会えたり、博物館みたいな所に行けたりもしました。

忍者村では中にある色んなしかけがおもしろく、勉強にもなったので、とてもよかったです。

わたしは最後の日の、水合戦を一番楽しみにしていました。水合戦は、カブ隊達が土の族、風の族、火の族、水の族にわかれてその土、風、火、水の族達が全員が集まってリーグ戦でペットボトルの水てっぽうの水を相手のおでこについている金魚すくいのポイに、にげながら当てます。わたしたち風族が勝ててすごくうれしかったです。

その日の夜のキャンプファイヤーは、きれいで、つかれがとれました。最後のキャンドルバックは、とてもきれいでした。その日の夜は、よくねむれました。たのしみにしていたおべんとうがいまいちだったので、ざんねんでしたけど、わたしはボーイスカウトをやってとてもよかったです。

豊中第22 団CS隊隊長　野辺　一也

「5TC がいよいよ始まる！」

隊長1年目で5TCに参加出来きることに幸運を感じながら楽しみにしていた5TCがいよいよ始まる。しかし、自分の力量の無さが他の団に迷惑を掛けないか、自団に恥をかかせるのではと期待と不安が入り交じった5TCでもある。

とにかく自分人身が楽しまなければ、スカウトも楽しんでくれないだろうと自分に言い聞かせる。

22団CS隊のスカウト全員が締め切りぎりぎりで参加してくれたことになり、何よりうれしかった。

今期の22団CS隊は女子スカウト11人男子スカウト1人という女子ばかりの隊になってしまったが、2組ともわりかしチームワークがしっかりした組になった気がするし、みんなで良い思いでが出来きて本当に良かったと思う。

全体プログラムの最後、水鉄砲の大会は、スカウトもリーダーも全員で盛り上がり本当に楽しかった。

今回の5TCに参加させて頂き色々勉強させて頂いた。各隊の隊長、副長の皆さんそして地区の皆さんに感謝の限りです。

本当に有り難うございました。

みなくち子どもの森」にて